333
311

2

0045949000

0045949-000

特２７５－２０８

地理指導の体系

山口静・著

山口静

昭和５

AHF

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第６７条の規定に基づき、平成１２年３月２３日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです

特275.
208.

帝國圖書館藏

地理指導の體系

山口 靜 著

昭和五年 帝國圖書館

自序

吾々現代國民生活の上に地理的識見といふものが、極めて重要なるものであることが日に日に認められて來た。

最近地理の研究が盛になつて地理科の本質、現代地理教育の思潮、時代的要求等あらゆる方面に研究が進められて行くのは非常に喜ばしい事である。

然るに直面せる實際問題に對しては斷片的に局部的で、有機的に系統的に考案されてゐない樣な点がある樣である。故に兒童自身に於ても、地理學習に對する興味と理解とを有する者が少い樣で、吾々指導者も地理指導に對する注意が不充分な点があり、殊に設備方面は未だ等閑に附せられてはゐないだらうか。

私は淺學菲才にして加ふるに經驗の淺きにも拘らず此の点を深く考へ、系統的に原理と實際問題とを述べて、地理指導の體系なる書をなすに至つたのである。

本書が地理指導の內容改善の爲に幾分なりとも貢献する所があれば私の望外の仕合せとする所である。

本書なるに及び鹿兒島第一師範學校村瀬教諭、女子師範學校松山教諭の御指導を賜り厚く感謝の意を表する。

尙本書を記述するに際して、參考せし文献甚だ多くして原著者に對して深甚の敬意を捧げる次第である。

昭和五年十月

城山々麓にて

著者識

地理指導の體系

目次

第一章　地理學の本質……一
第二章　地理科の本質……五
第三章　本邦小學校地理科の本質……九
第四章　目的に對する新要求……一四
一　地人相關の有機的統合
二　日常生活の理解指導
三　經濟思想の涵養
四　海外發展の氣分養成
五　國際關係の闡明
六　國際心の養成
第五章　地理學習の本質……二三

一　有機的の學習……二四
二　地圖中心の學習……二四
三　思考推理による學習……二六
四　科學的の學習……二七
五　地理材料の深化……二八
六　地理區の學習……二九
七　地理教材の純化……三〇
八　體驗の學習……三一
九　地理教育測定……三三
十　直觀の擴充……三四
十一　地理と論理……三五
第六章　各學年學習指導の綱領……三六
第一節　低學年……三六
一　日常生活の指導……三七
二　自然愛好の念養成……三九
三　地理的用語の指導……四一
四　低學年地理指導要領……四三
第二節　中學年に於ける地理指導……四六
一　鄕土地理の指導……四七
二　經濟生活の指導……五八
三　基礎觀念の指導……五九
第三節　高學年に於ける地理指導……六八
一　地理書の指導……六九
二　讀圖の指導……七一
三　地理實習の指導……八二
四　實生活の指導……九九
五　學習法の建設……一〇五
(1)　兒童の發達に即せる學習法……一〇六

(2) 材料の特質に即せる學習法……一二二
六 地理教育測定の徹底……一六四
七 他教科と地理科との連絡……一六七
第七章 地理學習指導案……一七二
第八章 地理教育の環境……一八三
一 特別教室……一八四
二 鄉土館兼標本室……一八八
第九章 尋五の地理指導……一九九
一 鄉土地理の指導……一九九
二 讀圖の指導……二〇〇
三 地理的用語の指導……二〇八
四 地理眼の指導……二一〇
五 地理學習法の指導……二二三
六 地理實習の指導……二二四

第十章 尋六の地理指導……二二六
一 鄉土教育の徹底……二二六
二 世界地理學習……二三一
三 地理實習の指導……二四三
四 地理眼の指導……二四七

第一章　地理學の本質

「地理學は人類の生活舞臺としての地球を研究の對象とする學問である」といふ見解は各國各地理學者の殆んど一致してゐる概念である。

地理學の對象は土地である。土地自身の研究には地質學や地形學が必要であるが地理學の本質的のものではない。然し地理に於ける土地は其の擴りに於て見るので單なる土地そのものではなく地表に於て見るのである。

土地の擴りとは單に地表そのものゝみではなく、地表に接して起るあらゆる現象をさすのである。

佛國地理學者ヴイダル・ド・ラ・ブラーシュは「地理學の對象は單なる土地其のものではない。土地の上に起る現象でなくてはならぬ。詳しく言ふならば地球の表面とそれを包圍してゐる大氣の下層との接觸点附近に於て生ずる所の現象は悉く地理學研究の對象である」といつてゐる。

ラッツエルは「地理學の方法は地球表面の擴りを決定する事である」といつてゐるのを見

ると地理學の研究は廣義の自然に他ならない。
即ち地球の表面と之を圍む大氣層とが相接觸して起る箇所に起るあらゆる現象は地理學の對象となすのである。
而して「地球上に起る諸現象は極めて錯雜し、且つ種々の程度を有つてゐるけれども、それによつてそれ〴〵の土地の景觀といふものが特色づけられてゐる。地球上の各地域には其の地域に起り得る限りの現象が表現されてゐるのであるから其の事實を綜合的に認識しなければならぬ。
其の個々の事實を別々に研究するのが各種の科學の職能である。然し地理學はそれ等の諸科學が代ることの出來ない職能を有つてゐる」とヴイダル・ド・ラ・ブラーシュは述べてゐる。
オットーマウルは「地理學の研究對象は疑もなく複雜なる其の儘の自然である」「それは單に統一的並に場所的見地から個々の異質現象を觀察するに止まらないで統一的研究目的物を確定しなければならない。これの研究目的物は即ち風土である」といつてゐる。
故に地理學は風土の學問にして土地の上に生起する現象は勿論の事風土の本質並に影響に

關する學問であるといつてよいのである。
又地理學は幾多の科學の領分まで入つてゐるのであつて、かく他の科學と重複してゐるけれども地理學をして他の科學と獨立せしめ得べきものは他の科學の如く素質そのまゝを現はすのではなくて、地域について現象の綜合を認識するのである。地理學の特質はこゝに存するのである。故に地理學は他の之を支持する諸科學の交叉点に存在する。
地理學の對象である現象は一つの集團的綜合現象であつて異質な現象から合成されてゐるものである。
然るに其の合成現象の各種要素は相互に關係し、共存し、結合し、衝突してゐるのであるからその綜合を認識するには要素間の關係の研究は缺ぐべからざるものである。
ために綜合の認識に各種要素の共存を認識し、之を分析しなければならない。從つて綜合の認識には分析が伴つてゐなければならぬ。これが地理學の終点である。
更に地理學の現象を內容上から見るならば地理的現象の中には自然科學的法則の支配下にあるものもある。然らざるものもある。自然科學的法則のもとにある現象を研究する地理學が自然地理學である。

自然地理學も亦幾多の異質現象を取扱つてゐる關係上物理的法則の支配を受ける現象を研究する地文地理學があり、生物的法則に支配せらるゝ現象を取扱ふ生物地理學がある、社會科學的、文化科學的法則の支配下にある人文地理學がある。自然地理學では全く人類の存在を無視してゐる。

地上に人類が存在すると否とに拘らず自然は嚴然として存在するのである。

自然地理學の獨自の生命は自然であり、これは先天的である。然るに人文地理學の獨自の生命は人類にして、自然なくしては生存は保ち得ない。自然は人類なくして存在するが人類は自然なくしては生活は出來ない。

茲に自然現象を持ち來す時其の關係は自然對自然にして、人文關係は自然對人類である。故に自然は双方の地理學の對象として重複して現はれる。自然地理學は人類地理學の補助を受けずとも存在するが故に其の研究は純然たる狹い範圍に立て籠つてゐるが、人文地理學では自然を對象とするが故に自然地理學の補助を必要とする。從つて自然地理學の發達なくしては人文地理學の發達を見ることは出來ぬ。

「地理學は自然科學にあらざると同時に、又社會科學にもあらず、實に地理學は是等兩者の中間に存在を保つものである。地理學の立脚点は地球又は人類を取扱ふ諸科學中に於て全然獨特なるものである」とシカゴ大學で發表してゐる。是は地理學は自然科學なりや、社會科學なりやと云ふ問題の參考になるものと思ふのである。

第二章　地理科の本質

地を離れて人はなく、地は人の對象であつて人は地の幻影である。地に廻轉の任務があり輪廻の理法がある。人に生滅の原則があり愛國の眞意がある。地は昔の地ではなく、人は昔の人でない。此の地此の人相妨げ相依り相扶け森羅萬象變轉止む時がない。蓋し沈默の地活動の人、地と人との相關性を知らずんば人生の窮通も、國家の衰亡も闡明ならず空しく五里霧中に彷徨するの嘆を免れない。

人類の生活は自然と密接不離の關係を持つてゐるもので、生活の資料はすべて自然の生産物であり、交通都邑の發達は勿論人類の氣質、信仰の如き精神的方面に至るまで甚大なる自然の影響を受けてゐるものであるがこれと同時に人類は自然を征服し又は順應すること

によつて生産力を増し、生活の便宜を増進するものであつて、こゝに自然と人類との間に交渉が起つて、地理的現象をあらはすのである。

この自然と人類との相互關係を調べるのが地理科の本質である。換言すれば一定の自然中に生活する人類は如何なる形式に於て、その自然環境に順應し利用し或はこれを征服しつゝあるかの關係を明かにするものである。

故に地理科は自然だけを取扱ふものでもなく、人文のみに走るべきものでもない。兩者の有機的關係を見てその土地に於ける人類生活の眞相を理解するにある。

然し何れに力を入れるかと言へば勿論人文方面の材料を多くし、時間もこの方に餘計取つて差支ない。

自然は人類生活を理解するにはどうしても考へねばならないことであるから農業だけを話してこれに直接影響を與へてゐる土質や氣候を說かなかつたならば地理教授は不具になつてしまふであらう。故に關東地方の地理を取扱ふ場合は最初は位置、土地の高低即ち山脈平野河川等の自然から入り、而も自然を學習させる間にも常に人類との交渉に注意せしめ次第に人文上の材料を增して行つて產業、交通を經て都邑にうつる頃には殆んど人文になるがこの場合も自然との關係を忘れぬやうにするのが最も適切な方法であらうと考へられる。

そこで地球上に廣く活動してゐる人類生活の樣式を一々の土地に當つて調べて、その現在に於ける眞相を知ることが必要である。

又人間生活の樣式には共通的の部分もあるけれども、多くは其の土地だけに見られる特長があつて、所謂地方的色彩をあらはしてゐるものである。これは自然そのものに共通点があるか、或は差異点があるかといふ問題に歸着する。近時地理區の研究が盛んになつたのはこれが爲である。

よつて地理科では自然の研究を怠つてはならぬがそれには地質學の外に地形學氣象學海洋學の力を必要とする。

而して自然の上に生活する人類は自然に左右されつゝも、亦之を巧みに利用し或は征服して生活の向上をはかつてゐるものであるから、その生活狀態を眞に理解するには如何なる民族で、如何なる政治、經濟組織のもとに活動してゐるかを知らねばならない。故に人種學、政治學、經濟學の力もからねばならない。

然らば地理科は幾多の學問の拔萃で、獨特のものではないやうにも思はれるがさうではない。地理科の本質は地球上各地に亘つて自然と人類との交渉を事實について決定して行くところにあるので、それがためには是等の學問の力をかりねばなるまいといふだけで、是等の學問を寄せ合せたものではない。

あらゆる學問の力をかりて地理的要素を合理的に組織立て統一して眞に其の土地の眞相を理解して行くのが地理科の本質の全半である。

特に地理科そのものは最早や國民教育といふ前提詞のもとに統制されてゐることは言ふまでもないことである。即ち科學としての地理と共に教養としての地理も認める。

現今科學的地理が餘りに高唱されるため地理科の國民の精神教育方面をおろそかにしてはならない。

要するに地理科は一方科學的地理の上に立ち一方教養的方面に立つべきもので、どちらか一方に偏すべからざるものである。こゝに地理科の本質がある。

然し一面地理科はかくの如く二元的立場にあるやうにあるけれども、事實は決してさうでなく教科としての地理教育の目的を理解させるに當り唯漫然と機械的に取扱ふのではなくそれを科學的方法によつて理解せしめると見るべきであらう。

第三章　本邦小學校地理科の本質

教育に知識を獲得する方面と、精神を涵養する方面の二相を是認するならば、地理教育に於ても地理的知識を教授する實質的方面と、國民精神を振作する形式的方面の二大分類のあることは肯定される。

それならば我國に於ては如何なる目的で地理科を取扱ふべきかといふことは小學校令施行規則第六條に示してある。

即ち「地理ハ地球ノ表面及人類生活ノ狀態ニ關スル知識ノ一班ヲ得シメ、又本邦國勢ノ大要ヲ理解セシメ、兼ヲ愛國心ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス」とある。これを前の二項に要綱を摘出して見ると、

一、實質的方面

(1)　地球表面に關する知識の一班を授けること。

(2) 人類生活の狀態に關する知識の一班を授けること。

(3) 本邦國勢の大要を理解せしめること。

これに就いて更に具體的に述べると、

(1) 地球表面に關する知識の一班を授けること

地球表面に關する知識の一班と言ふのは、地球表面に起伏する海陸の分布狀態、地の擴りについて言へばこの上に生起する內力外力の諸勞力、地球の物理的性質、化學的性質、地球を圍繞する大氣の循環、地表に於ける動植物の分布等地球の所謂表面に關する自然地理の內容を示してゐるものである。

(2) 人類生活の地理的狀態に關する一班

人類は土地があつて始めて生存するもので、土地を無視して人類を論ずることは出來ないが然るに土地は人類の有無に拘らず存在し、あらゆる自然物は存在し、諸現象は行はれてゐるものである。然しながら自然は人類の生存することによつてより以上の價値を創造するものであつて、茲に人類の生活如何が重要視されて來るのである。

人類は此の廣き舞台である地表を生活の基盤としてゐるのである。そして人類の自由意志

によつて自然を切開き、或は交通運輸の便をはかり、或は地の利を得て天產物を利用して生活の便利をはかり、或は都會村落を形成して文化生活を營み、人類の集合の結果そこに部落を營み、密集團結して國家組織を營み、その裏にそれ〴〵政治、經濟、教育、科學、藝術等の文化發達に貢献するものである。

(3) 本邦國勢の大要の理解

我が國は歐洲大戰後其の世界的地位は大いに向上し、五大國の一に列し、而も英米と共に三大國の實を擧げ、我が國の行動は大いに世界の耳目を衝動せしめつゝある。此の時に當り、自國の國情を理解し、國力の充實を企圖し、世界の大勢に着眼せしめ、世界列强の形勢と各國の國情を洞察し本邦の世界的地位を知らしめ、善良有爲の國民たらしめんことは正に我等の努むべきことである。

殊に今日の如く國際問題複雜化し、國民活動の擴張された時代にあつて他國の國情と國民性の理解を必要とするのである。然るに從來の地理教授は國民教科としての目的がこゝにあるにも拘はらず、個々の地理的事實や區々の地理的事象を取扱つたりして全局の大觀を忘れてゐたことは殘念である。

又地理學の發達傾向によつて地形學研究の擡頭、地質學的考察が盛んになつたゝめに國民教科に於てもそれをやらねばならぬとするが如きは國民教科としての地理科の本質を充分考察せざるものと思はれる。勿論教科として地理にも場合により、教材により、程度によつてはさうした方面から考察し指導する事も必要であるが大局に於て國民教科としての地理であることを深く念頭に置かねばならぬ。

中學教育調査委員會にて研究調査された地理科の教授要綱を見ると、

「地理の教授は我が國の世界に於ける地位を明かにし、國民的自覺を促すことを主とす。外國地理を授くる際にも常に我が國の情勢を以つて比較の基礎となし、學校所在府縣及び是と密接の關係ある地方は特に詳細に之を授く。

外國地理に就いては經濟、產業殊に我が國と關係ある地方は詳細に之を授くべきも、其の他の地方は比較的簡約ならしむ。

自然地理概說及び人文地理概說は特に我が國に關する事項に留意して之を授く」とある勿論中學校に於ける地理も國民教育としての地理であるから正にかくあるべきである。

國勢といふ語義に就いては其の意味漠然として其の內容を知るに甚だ判然しないが、政治的方面と經濟的方面との二つをあらはすものゝやうに思はれる。

然しながら政治的、經濟的のみで一括して國勢といへるかとすれば何となく物足りなく思はれる。それは單に有形的方面のみ考へて國民性の如き無形的方面も考へないためである

本邦の斯くの如き國勢は如何にして到來したものであらう。言ふまでもなく人類特に我國民は如何に本邦の國土の影響を蒙つてゐることか、國土に如何に順應して如何に國土の力を利用しつゝ社會生活、文化生活延いて國家生活を營んでゐるのか。

併して國家組織の裏にあつて、國家の物質的方面の富源と國力充實如何と、精神的方面の國運發展如何とは要するに國民活動の一切で、國土の價値は國勢への共同的所爲と見るべきであらう。

二、形式的方面

(1) 愛國心の養成

是を具體的にのべると、

地理教育に於ては愛國心を强ゆることなく、また愛國心の概念を抽象的に詰め込むことなく單に地理上の材料を提供することによつて、眞に祖國を考へ我が國の將來を如何にして

進歩、發展せしむべきかを思ふに至るのである。

殊に外國地理を授けて我が國の資源とか、産業狀態とか人口問題等がわかつて來ると、それが痛切になつて來る。

近世に於ける世界の趨勢はすべて國際的に、協調的に、妥協的に赴いて、世界人類の福祉を增進せしめつゝあることに向つて來た。若しそれ歐洲大戰以前を武力的平和の時代とするならば、今日は國際的協調時代といふことが出來やう。

茲に於て近來諸國は早くも眼を轉じ、形式を變へ、特に平和的、國際的の立場に於て、自國の國力の充實を圖り、民族の經濟的、文化的海外發展を企圖することに着眼する樣になつて來た。

そこで我等の愛國心とは國際協調の立場に立脚せるもので決して二元的のものでなく、一元的のものである事を強く念頭に置かねばならない。

第四章　目的に對する新要求

教則の精神は如何にも總括的であり、抽象的であるが、其の根本精神は教則の各內容を相關的に、互に相連結して考察することによつて窺はれるもので、其の眞精神は國勢の大要を理解し、愛國心を陶冶し、人類的協調の教養にあることは前述した通りであるが、教則に示された要旨なるものが、或は兒童の心意の發達程度、或は土地の狀況、或は時勢の進運乃至は國家社會の要求等の各方面から考究するならば、幾多の缺陷なきにしもあらずとするが、教則は其の大綱を示したに過ぎないのであるから、其の根本精神は前述の如く見ることが適正ではなからうか。

現下の世相、教育の思潮、地理教育の新潮等に基づいて、教則の各項に對する時代的要求を述べる

一、實質的方面

(1)　地球表面に關する知識の一班に對して

これは自然地理方面で如何に人事に關係せるか、人類が如何に自然を利用せるかの考察に必要なものである。故に地人相關の理法を探究するに主要なるものである故或程度まで理解せしめることが大切である。

(2) 人類生活の狀態に關する知識の一班に對して

イ、地人相關の有機的統合をはかること。

今日地理教授の新潮として高調されてゐる所のものは自然は如何なる影響を人類生活に及ぼすか、人類は如何にして自然を征服し、或は自然に順應してゐるものであるか―而して此の自然と人類生活とは如何なる關係にあるかと云ふ兩者の關係を闡明ならしめるといふことに歸着してゐる。

この主張のもとに地理指導の根底は地人相關の體得にありよりよき生活への向上も目指すことになる。

地理的現象を有機的に考察することは地理科の指導上最も緊要の事である。而して地人相關的に考察するといふことは、地理指導者に依つて最も多く主張されてゐるが、其の內容が極めて不鮮明の感あり、明瞭ならざるものがある。

要するに人類生活をしてよりよき價値の創造への目標で、人類の自然界に對する施設經營とも稱すべき自然と人文との連絡關係である。換言すれば人類の自然界に對する利用厚生である。即ち人類が如何に自然を征服し之を利用するか、又は如何に自然に順應するかの

問題に歸する。

勿論地理的に自然對自然、自然對人文の地理的理法にも留意する。

尙どの程度に有機化すればよいかといふことも問題になるが兒童を對象とするのであるから一概に定められない。よろしく各個々の問題に就いて、地理科の本質と本邦地理科の本質の立場ならびに兒童の程度等から相關的に割出して其の程度を決定すべきである。

ロ、日常生活の理解と指導に留意すること

人類の生活舞臺として地球を觀る時、吾人は地球表面の各地に散在し、或は自然の理法に支配され、或は順應して各適當なる生活を營み、特殊の文化を創造し、今や世界の各國は政治的にも經濟的にも相倚り、相扶けて國際的に影響を與へないものはない。以上の諸事實によりて兒童をして日常生活に必要なる知識を得せしめるのみならず、又宇宙の廣大無窮なることを知らしめることが出來る。

次に本邦の國勢、文化の發展、地位を知らせ、產業、交通、重要なる都會等の自然的、人文的狀態を授け、世界の諸國に比して本邦國勢の大要を理解せしめるのは國民教育の重要な任務で、地理科は實に此の任務を達すべ使命を持つてゐるのである。即ち地理科は國民

の日常生活に必要なる知識を與へ、公民として必須なる公民的知識或は社會的識見を附與するものである。實に地理科は國民生活なり、兒童の日常生活なりを實際に指導すべき機會と資料を多分に含んでゐる。

吾人を圍繞する周圍のすべては是れ地理的事象であると思はれる。されば此の見地から地理の教授によつて兒童の生活に理解を與へそれを指導するは緊要なことである。

(3) 國勢の大要を理解せしめる事に對しては

イ、産業の發達を圖り國産奬勵の必要と經濟的思想の涵養をはかること。

我が國民生活の現狀を見る時經濟力の貧弱なること、産業組織の不備なること、科學思想の幼稚なること、國民生活の低級なること、公民訓練を缺如せること等枚擧に暇を多くするといふ始末である。

殊に經濟的方面に於て然りとす。それ故に國民をして經濟的思想の涵養を圖り、國産を大いに奬勵し生産力の增進と産業の獨立發展とを企圖する精神を喚起せしめ、以て世界の經濟戰に備ふる所あらしめることは目下の急務である。

現下の國際的經濟戰に對して如何に善處すべきやの問題に至つては産業を奬勵し、國富を增殖し、一般國民の經濟的知識及び技能並びに道德の修養を圖るべきである。

國勢の內容を政治的方面と經濟的方面とに分類して考へた事は前述の通りであるが、政治的方面といつても兒童生活と如何に交涉をつけるか即ち密接なる交涉がない。

たゞ經濟的方面が兒童の生活に交涉があると思ふ。子供は社會人である。複雜な社會の構成には子供は重要な役目をつとめてゐる。そして子供によつて社會の動きが變つて行き又反對に社會の動きによつて子供の生活が變つてゆく。

要は第二の國民をして國內の産業を發達せしめ、國力の充實をはかり、國民經濟の發展と國民生活の安定をはかり、以つて世界の經濟戰に備ふ樣に指導する。

ロ、我が國勢を知らしめて世界的地位の認識をはかること。

これは我が國の地理教授上特に留意すべきことである事は前述の通りであるから前節の參照を願ふ次第である。

ハ、海外發展の氣分を養成すること。

我が國は面積は狹少で生産物は乏しく、食料すら不足してゐる狀態であるに拘らず、人口は八千三百四十五萬と云ふ多きに達し、其の密度は一方粁百五十七人で、ベルギーは二百

六十人、オランダ二百十八人、イギリス百八十三人に次ぎ世界第四位を占めてゐる。その上年々七十餘萬人づゝ增加する有樣であるから、近來は生活難は益々深刻化して行き、失業者も日々に加はつて國民生活の安定は日一日と脅威されつゝある事は火を見るより明かである。

そこで之を救ふためには一面商工業を興し、貿易を盛んにして海外に商權を擴張すること、一面適當なる移民地を選定して國民を外國に移住せしめることの外に道はない。

移民の奬勵すべきことは、現在國家が如何にこれに力を入れてゐるかでも分るのである。

ニ、各國勢及び國民性の特質を明かにし國際關係を闡明にすること。

今までの世界地理に對する態度は、主として我が國勢を了解せしめるにあると局限されてゐた感がある。

世界を國民生活の舞臺の延長と眺め、民族發展と觀て、海外の事情を明かにすることを怠つてゐた。ために世界各國並びに各民族を國家生活と緣の遠いものに考へてゐた。

從つて今後の世界地理は各國各地の特色を闡明にし更に如何にして現勢を致したか、其の國の國民性及び國是等を明かにし、其の國家並びに國民が現在如何に活動してゐるかを知らしめたい。

のみならず各國人が如何に自然に親しみ、土地、河川を利用し產業を營み、交通機關を活用し、都會生活乃至は田園生活をなしてゐるかを知らしめ世界に於ける民族の實生活を明かにして國民生活の向上に資することが肝要である。

要するに世界地理を併せ見ることによつて國勢をよりよく了解し、其の世界的地位を自覺し堅固妥當なる愛國心を養成して國民的責任の重大なる所を感得せしめ、世界を國民生活の舞臺と見、民族活動の延長と眺め特に世界各地の特色を闡明にし以て適當なる世界的識見と世界人類に對する理解、同情の念、各國民族相互間の共存生活關係換言すれば國際關係を闡明にし國際心の涵養に留意することが緊要である。

(4) 愛國心の養成に對しては

イ、國際心の養成に留意すること。

這般の歐洲大戰により世界の所謂武裝的平和の時代は破れ國家主義、軍國主義の武力的競爭が產んだ大慘劇を眼の前に見せつけられた各國及び民族は誤れる國家主義、侵略主義の軍國主義者を恐れ、戰爭を平和的の解決によつて、未然に防止せんとする態度を增長し、

世界は平和主義、人類相愛の主義を提唱するやうになつた。

殊に最近に於ける國際的協調に關する諸種の運動は、單に政治的、平和的なるを期待するのみならず、人道的背景を以つて國家關係や民族關係を根本的に解決せんとしてゐるのである。

即ちパリー平和會議に於ける國際聯盟の成立と云ひ、ワシントンに於ける軍備の縮少といひ、國際勞働會議といひ、近くはロンドン會議の如き、何れも歐洲大戰の世界の趨勢を物語るものである。

國際間のことは單に外交家や政治家の一片の辭令にのみによつては眞の親善を保つことは出來ない。此の点に於いて從來の親善は皮相的の嫌がある。而して今後の眞の親善は教育の手段にまたねばならない。人種的偏見のない、純眞な兒童に此の精神を皷吹することによつて其の目的が徹底するものではないだらうか。

今や世界をあげて國民外交の聲を聞くが、教育によつて啓培される國際的精神なるものは其の主要なる位置を占むべきものであると思はれる。

勿論國際心と愛國心とは離すことの出來ないものであることは前に論じて來た通りである。

これまで目的觀に對する新要求を各項を追ふて述べて來たのであるが、これは別々の事でなく相關的有機的に關係をもつものである。即ち地球表面と人類生活の狀態とは地人相關の有機的關係をなし、地球の表面及び人類生活の狀態に關する知識の一班が分れば本邦國勢の大要を理解することになる。此の本邦國勢を理解することによつて眞の愛國心も出來從つて國際心も養成されることになると思ふ。

第五章　地理學習の本質

一、有機的の學習

地理學習の對象は人類が如何に自然を征服し、如何に自然に順應してゐるか、即ち地人相關の內容を包含したる神秘の世界であると言へる。即ち地理的事實と地理的作用とである目に見えるものと、目に見えないものとである。

地理教材程變動の多いものはない。今日の新教材は明日は早や舊教材である、吾人はつと

めて最新の教材即ちかくある狀態文化景觀を學習すると同時に、かくあらしめた作用を學習させねばならない。

かくあらせた作用とは各教材がもつ相互關係であつて、かくある狀態が死教材として葬り去らるゝ時があつても尙生々發展する偉大なる力である。

故に地理學習の初步の場合に於ても、地理書記載の順序に學習するにしても、地勢と產業交通、都邑等の關係、產業と交通、都邑との關係といふやうに各要素間に有機的の連絡をとらしめる樣にする。

有機的學習をはかるには統一さるべき中心問題によつて、學習させるがよい。それによつて各自の頭で色々と關係を探究して組織化されて行く。教科書や參考書の通りでは、決して出來るものでなく、自分自らが材料を研究して纏めて行くから、いくらか骨が折れるが十分に理解も出來、興味も多く、何ものか一貫したものがあつて統一されて行く。所謂血の通ふた生命のある地理學習が出來る。

二、地圖中心の學習

しからばこの「地人相關」の內容を包含したる神秘の世界を解析するメスは何であるか。

之は讀圖力をして外にあり得ない。即ち文化景觀の正相を直視し、生動する理法を察知感得するのは讀圖力である。故に讀圖力は地理學習の全內容であるといつてよい。讀圖力には外面的讀圖力と內面的讀圖力とある。外面的讀圖力とは地圖上に表現されたる地理的の符號を讀むことで所謂地圖の Looking である。

內面的讀圖力とはこれ等の地理的の符號を通して、之に內在する造化の意志と人間の意志との相關を讀む力である。

即ち地圖の Reading である。然し外面的の讀圖力と內面的の讀圖力とは決して別個のものではない。即ち內面的讀圖力は外面的讀圖力を外にしてあり得ない。

教科書は最も抽象されたる概念の記述である。斯く抽象的な記述は單なる材料であつて地位化された材料でない。

學習とは「有機體が地位を統制する過程である」と言つてゐるが、地位即ち學習の關心(Interest) の對象とはなり得ない。

此等抽象された概念を地圖に飜譯することによつて材料の地位化があると思ふ。

兒童の前に地位が出現すると活動せずにはゐられなくなつて反應する。主觀と客觀との融

合一致の境地を出現する、この反應が体驗であり、理解である。

吾人指導者は地圖を出發點とすると共に歸着點として行く、兒童の頭の中に地圖といふものによつて纏つて行くやうにすることが重点である。

三、思考推理による學習

讀圖力を前述の如く考察し、この力が地理學習力の全内容であるとするならば、地理學習の焦点は地人相關の取扱であると言へる。ミルは

地理學は地球表面に於ける現象の分布に關する精密且つ、有機的の知識にして人類とその周圍との交渉の說明に於て最高点に達したものである。と言つてゐるが此の邊の消息を物語つてゐる。修正されたる地理書はこの点を重視してゐることはどの頁を見ても明かなことである。

故に此の焦点に徹したる時即ち地表に表はれてゐる雜多なる現象を渾一体として學習したる時、そこにまざ〳〵と、地人相關の正相を直觀することが出來、そこにはじめて、神秘の世界に驚異の目を開くであらう。そこに地理的理法の發見があり、又そこに吾人の向上があり、人格の擴充があり、眞實の學習がある。地理的理法とは數學の定理の如く「かく

かく也」との斷定の意味にあらずして「かく〳〵の如き傾向性を有す」とその傾向性、可能性、習慣性を意味する。

理法を發見し其の適用に努めしめる樣指導せねばならぬ。が其の理法が獨斷的になつてはならない。よろしく正確で、而も穩當な理法を發見することが必要である。

四、科學的の學習

眞實なる造化の神秘と人類生活の景觀を理解せんとせば即ち地表に於ける雜多なる現象を渾一体として理解するには其の敎材を通して全一体に歸らねば出來ない。その爲にはどうしても材料を其の要素に分解し綜合してその相互關係を究めることが大切である。分解し綜合して全一に歸つた時に眞實の理解がある。

例へば產業は位置、地勢、氣候、地質、人情、人力、交通、都邑等の如き地理的要素の複合關係よりなる文化現象であつて九州の產業は九州獨特の各要素の結合である。

故に九州の產業の理解といふことは、其の獨特なる複合關係を知らせることであらねばなるまい。依つて綜合のための分解である部分圖が必要になつて來る。

之等の部分圖を讀むことによつて換言すれば此等の地圖を通して各要素間に於ける相互關

係を思惟することによつて九州の産業を具体的に理解することが出來る。

關東地方の理解とは關東地方の個性を理解することである。凡そすべてのものに個性を認めることが出來るが如く地理に於ても其の地域に個性がある。即ち自然的影響によつて各地方毎に現出されてゐる諸現象の特殊相であり、その地域に於ける地理的各要素の獨特の複合關係によつて現出された景觀である。

五、地理材料の深化

地理は科學であるからその研究法は分解的になり勝である。又大部分が未見未踏の地を取扱ふものであるから必然概念的、抽象的、想像的になり、したがつて無味になり乾燥になり、殊に子供には理解し難い記憶を強いられるから嫌ひなものになつたりする。

吾等は常に子供が地理の時間を樂しむやうに導いて行かねば幾ら汗水たらして努力してもその教育的効果の半以上は葬られてしまふ。

地理教育は地人關係の考察を一眼目としてゐる以上、何故かの問題を解明する以上、其の何故かを徹底的に兒童に理解せしめねばならない。其の理解の方法を出來るだけ具體的にしたい。具體的なるが故に教科書の記述のみに滿足することは出來ないで教材を深化しなくてはならない。

地理教育は地理的理法を兒童に理解させる教育だといふ。これを單純に考へたらそう時間のかゝる仕事ではない。

養蠶業の發達條件はかく〳〵あると教へればよいことになり最も簡便で最も兒童の記憶を確に長く維持することが出來る。これでは單に機械的に記憶したに過ぎない。

理法と名づく以上それは法則である。

地理的の法則が出來たといふ理由は始めは具體的事實問題から抽象されたものである。である以上地理的理法を兒童に徹底的に理解させる以上發生的に具体的事實を理解させることが一番よいと思はれる。

地理教育は文化の理解といふ一眼目を有する。總ての教育が文化の理解といふことに心掛けてゐる以上當然さうなければならぬことである。それが何のためかは文化教育學の論ずるところである。

地理的文化を理解せしめるには具體的でなければならぬ。

六、地理區の學習

前に述べた通り九州の理解とは九州の個性を理解することである。即ち自然的環境の影響を受けて各地方毎に現出されてゐる諸現象の特殊相を知ることである。

これは自然そのものに差異点があるといふ問題に歸着する。

瀬戸内海型とかいふのは其の地の個性であると思ふ。以前唱へられし型とか、地帶とか言つてゐたのは主として自然地理的方面にのみ使用してゐた樣であるが只今此處にいはれてゐるものは自然と人文の相互關係的景觀で新地理學的な意味である。此の個性を認識するには地帶に分けて比較研究することによつて明確になると思はれる。地理學習始期に於ては鄉土と比較し更に既習事項と比較し最後に今新に學習する地方について、其の差異点を比較對照しつゝ學習を進めることである。其の比較對照しつゝ學習することによつて地人の相互關係並に人文發達の理由などが充分に考察が出來る。近時地理區の研究が盛んになつたのはこれが爲である。

七、地理教材の純化

地理教育を具體的に行はねばならぬ事は明かでこゝに問題となつて來るのは時間である。この時間を如何に切り拔けて行くかと云ふと、どうしても教材を精選し、純化しなくてはならない。如何に單化し、純化するかはその人の經驗と學識とによる所であるが、要するにその根本をなすものは教科書である。教科書の內容を徹底的に研究することである。兒童にも題材の主眼点を把捉するやうに指導し、着眼のよいところを認め、間違つてゐる所を開眼してやる。

そこで此の所は產業の發達原因を理解せしめるためにとかこゝは食糧問題について理解させるとかいふやうに主眼点を定めてかゝることは重大なる事である。學習の際にも、主なるものに力を注ぐやうに注意し輕いものは割愛しても良いと思はれるのである。

八、體驗の學習

最近勞作教育、作業教育が高潮され、兒童の體驗を尊重することが叫ばれてゐる。地理教育にも作業的學習といふ事がやかましくいはれてゐる。作業といへば直ちに筋肉勞働の如く思ふがこゝに言ふのは決してそんなものでなくて、目的意識を有し、然も其の目的とするところは智識の獲得にあるのだから單なる身体の運動ではなく、必ず精神力を錬へるのに與つて力がある。即ち目的意識に從ふ意志を發動せしめて、眞の自己活動、能力にて思索し、或は創造し創作する能力を持たせることにあるのである。

換言すれば作業は兒童の知情意の三方面を練習するのである。作業に於ては兒童は精神的に自立し、それによつて、達せらるべき目的を意識し、製作の方法を考へて順序を定め、作業中は目的を常に維持して忘れることなく、專心之に從ひ、仕事を遂行するまでは少からざる苦心と努力を要し、從つて意志を錬り、製作の途中又は完成に當つて非常な滿足を得るので情操を養ふことゝなる。かやうにして練り上げた精神力は或る一つの作業は終了し、製作品は完成しても、消滅することなく、新に他の仕事に對して有効な能力となつて力强く發動するのである。これが作業の長所であり、効果であらうと思ふ。

更に具體的に實習的指導の價値を述べると

1、智識を確實にすること、實習によりて兒童は精密な觀察と精確な判斷をなすのみならず、得たる知識は筋骨を通したものであるから確實な地理的のものである。

2、應用の能力を養ふこと

實習以外によつても、應用の能力を養ふことは出來るが、實習によつて地圖を理解する力を養成すれば他の地圖類も讀み得、圖上測定が出來てゐたら隨時圖上及び地上の測定が出來るものである。模型を製作して平面圖を立体化して地理的景觀が把捉されることも實習によりて色づけられることである。

3、興味あらしめ、努力せしめること。

地理學習を趣味にまでといふことはさもあるべきことである。地理に實習を主として行ふ場合に於て兒童が頗る興味を感ずることは指導者の体驗する所である。かくの如く興味を持つて來ると、自ら地理科に努力するやうになつて來る。

趣味とは努力の傾向性と思はれる。こゝに於て地理學習に於て努力の傾向性を附與することは小學校に於ける地理の學習の理想である。この傾向性が養成されてこそ彼等が學校を卒業して後も獨自に地理の研究が進展するのである。

九、地理教育測定

地理の本質から云へば考察的の學習は當を得たことになる。地理學習に於て他人相互關係の考察と理解といふことを高潮し有機的關係による學習をして行くと記憶的方面が輕視される。地理の目的の一つが實用的能力を養成するにあるのだから記憶的方面も大事である

尙又被教育者の教育條件を個別的に研究調査することは、來るべき實際教育界に提供された中心問題である。

被教育者の具體的教育條件が、教師の手によつて個別的に研究調査され、始めて個性尊重の教育、能力適應の教育が確實な具體的根據を得る。

地理教育に於ての測定の研究は要するに教育的測定の一部である。教育は要するに個人と個人の問題に歸着するのであつて、教授すべきことも個々に徹してこそ意味を持つ物である。しかし個別的指導は現在の如き一齊教授の時間に於ては十分なる結果を得ることは困難であつて、それが爲何等かの適當な方案によつて個々の教育の力を測定する外致し方ない。

地理學習の際にも能力に比例して教材なり、指導法なりに差をつけることは必要である。又數種のテスト問題を課して個々の能力を知ることにつとめねばならない。

十、直觀の擴充

地理の本質論から見ると直觀による學習が眞の地理學習である。鄉土地理に於て直觀的に學習させて地理の基本觀念を養成しそれによつて直觀の出來ない、未見未踏の地を想像させるのであるが其の想像たるや、想ひ半ばに過ぎないものがあらう。

そこで單に狹い範圍の鄉土に於て直觀的に學ばせそれに依つて他地方の地理を想像的に學ばせるといふことは不充分である。隨分不正確な危險な地理學習である。

で鄉土のみに限らないで直觀の範圍を擴充することは重要であると思はれる。それには、遠足や旅行を計畫的に行ひ實地見學、繪畫寫眞等によつて直觀的に學習せしめる。

單に直觀するに止めず十分推究せしめ想像地理の基礎の豐富と確立とをはかつて行かねばならぬ。

十一、心理と論理

地理の學習は兒童の心理發達の程度、學習力に立脚して學習する方面と地理學習の本質にかなひ且つ材料の特質に應じて學習する方面との二つがある。

初步の場合には兒童の心理發達、實際の學習力に立脚した方法をとらせ、兒童の經驗行動を尊重し絶えず價値批判の眼を養成して地理學習の着眼点を高め、理想に向つて漸進の態度をとることが肝要である。

指導者は本質にかなひ材料の特質に應じた學習法に就いて識見なり、題材觀を確立せねば兒童は進步するものではない。

要は論理的立場を指導の背景とし、正面には兒童の心理に立つて地理學習としての理想の

向上を圖ることである。

第六章　各學年學習指導の綱領

第一節　低學年

地理教育は自然界、人事界、思想界のあらゆる方面を材料と地人相關の理法によつて解決して見やうとする一面の任務を有してゐることはこれまで述べた通りである。他の何れの教科と雖地理材料程に多方的なものはあるまい。目に見えるもの、耳に聞ゆるもの、之等多方面の事物に理解を持ち意味を知るに於ては其の生活の如何に廣く、味合の深刻なものがあるかは實に面白い。机上のゴムを取つても嘗つては熱帶地方に生ひ立ちし其の姿を思ひ、一枚の新聞紙も嘗つて何處かの林に生ひ立ちし頃を思ひ、八百屋のバナヽに我が國民の植民地經營能力の絶大なる意味を表してゐるを知る。

我等の床の綿はアメリカ印度の平野に栽培せられて其の國人の手によつて修理され、船で送りとどけられたものであり、洋服の毛は濠洲あたりの羊に生えてゐたものである。

かうして數へる時我等の身のまはりには、世界中から幾千萬の各人種の手を要した品物が集められて世界の物語をしてゐる。

之が延ひては將來の經濟生活、文化生活の基礎となるのであつて、日常生活と地理教育との關係は甚だ密接なものである。

一、日常生活の指導

イ、指導の原理

子供はお砂糖が好きだ。好きなお砂糖のとれる國に行きたいと考へるのが先づ常であらうそれに現在の教科書は、そんなお砂糖の考方は違ふ。臺灣には木材と樟腦とお砂糖等がとれる。產額はいくらなどとある。この二つの考へ方は些細な差のやうであるが大きな違がある。

アメリカの地理書などは「吾々の着物」「吾々の家」「吾々の食物」といふ風になつてゐるさうである。

「吾々」といふ言葉は既に子供の生活に呼びかけてゐることであり、子供の生活を離れないことである。將來行はれんとする經濟地理は子供の經濟生活に立たねばならぬ。

文字を欲求する頃とお金を欲する頃とが同時に來る事に吾々は考へねばならない。そして一方は國家が教育を強要し一方は全然教育をなさない。教育は經濟問題から離れたい。しかし人生のある限りは最後まで續く子供たちも決して離れて生活はさせられない。

現在までの教育はたしかに教師は人間生活をしてゐながら子供には神の生活を強ひてゐた唯上からのみの教育を強ひた。それで教育は本質から遠ざかつてしまつた。

とり方を知らない子供が自由にお金を遣ふ。遣ふことが先になる。恐しい消費が人生に一番先に來て又一番終りに來る。我等は多端な將來を有する兒童に其の無關心から來る不幸を避けさせたい心を多分に有してゐる。

ロ、指導要項

子供は文字によつて支配する知識の世界がだん〳〵學年の進むに從つて多くなると同樣にお金による支配の世界も非常に多くなつて行くのを見る。そして低學年の一番品物の共通的であつたものが本、米、着物、菓子、玩具、果物等である。それを見ても如何に彼等が家庭本位に生活してゐるか、原始的な品物に氣づいてゐるかゞ分ると思ふ。

子供の時代にほしいものと言つたら一番先にやつぱり食物であらう。殊に下になればなる

程玩具等は其の次に來るであらう。玩具にしても、自動車、馬、汽車と言ふ樣な活動的なものを好むであらう。更に分類して行くならば、

尋常一年時代には

食物に關するものに　お菓子、果物、お米、魚類、お野菜。

玩具類に關するもの　自動車、汽車、電車、馬、三輪車。

衣類に關するものに　着物、帽子、帶、洋服、靴、靴下。

學用品に關するもの　本、鉛筆、机、紙。

其の他に關するもの　家、食器、等があらう。

尋常二年時代には學習に對する物品が非常に增して來る外餘り變りはない樣である。

要するにお金の遣ひ方を指導することが低學年に於ける、經濟教育の重点であると思ふ。

二、自然愛好の念養成

イ、指導の原理

吾人の生活は自然と密接な關係のあることは之まで屢々述べて來たが低學年につとむべき所は兒童を自然に親しましめ、直觀生活を豐かにし土に接近せしめて、出來るだけ彼等の

感覺と自然との間に不自然なところがない樣にし土から生えた兒童達の生活を育て樣とすることが大事なことである。

ロ、指導の要項

この際最も重要な教場は鄉土の自然であり、その人文である。即ち鄉土のすべてが教育場であり、同時に教材の源泉生活の發芽する所になるのである。然らば鄉土の如何なるものを教材として取るか、即ち

自然方面に於ては

○學校の位置…何町にあるか

○自分の住む町…何町のどの邊にあるか

○學校を中心とせる町…町名

○主なる官廳、佛閣、神社、名所、舊蹟、停車場

○主なる河川、山に至る距離、方向

人文方面

○停車場…何をする所か、どうして利用するか

○郵便局…何をする所か、どうして利用するか

○銀行…何をする所か

○工場…何を作るところか、作つた物は何をするのか

○市場…何をするところか、どんなものがあるか

實習方面

○距離測定…足で何歩位あるか、はかつたらどれ位か

○方位の定め方…自分の家から東か西か、學校からは

○氣象觀測…雨が降つたかどうか。袷か、單衣であつたか

○描圖の稽古…學校から家までの順路をかいて見よ。主な名所。遠足等の順路をかいて見よ

これ等の事を指導することは、一面日常生活の理解ともなり、一面又將來への發展を示すものである。

三、地理的用語の指導

イ、指導の原理

幼年兒童の用ふる言語は繪本で見たものや、話で聞いたものが含まれてゐて、直接に自然物を見聞したことのみではないが、何時かは自然と實際合致する時が來なければならない

ロ、指導の要項

然らば低學年兒童は如何なる語を有してゐるか。

○自然に關する語

○飲食物及び服裝に關する語

○身體衛生に關する語

○動物に關する語

○植物に關する語

○遊戯に關する語

○社會生活に關する語

故に是等の語を育てつゝ、或は國語讀本にある地理的用語の取扱をなすことによつて更に擴充されて來ると思ふ。

今一二年の國語讀本の地理的教材を見るに

巻	題目	自然	人文	實習
一	ハコニハ	山、川、谷、海瀧の觀念		鄕土に立脚して模型平面圖を畫かしむ
三	四方	東西、南北、鄕土の方位		磁石にて方位の定方、平面圖に南北を示す
三	私の村	岡、山、田、川、新道方位に就きて指導	天神樣、學校、役場に就きて指導	地圖の見方、距離の觀念養成鄕土の平面圖
四	私共の町		村と町との違、都邑の發展	想像によつて鳥瞰圖を作らしめる
四	汽車の旅	河、トンネル、海	軍艦、兵營、船、停車場汽車、「交通とは」	鄕土の停車場見學、職能利用法研究

、低學年地理指導要領

1、渾一具象のまゝに指導する

兒童の生活事實は渾一的非分科的のものであつて、それは決して各教科の內容が意味する

やうな純然たる地理生活、歴史生活、理科生活、數學生活等でないことは言ふまでもない唯環境に相即する反應そのものが渾一のまゝに具象のまゝに展開されるだけで、それを綜合的全一的に見れば或は地理的生活の色彩を帶び、或は歴史的生活の樣相を持つてゐるといふまでの事である。我等は兒童生活を非分科のまゝに而も渾一のまゝに而も其の特色を破壞することなく、之を有養助長すべく適當な指導を施しておかねはならぬ。其處に地理生活の萌芽は伸びやがて地理學習の花は咲き實は結ぶのである。

2、偶然より必然への指導をする

兒童生活は包全的であり具象的であり、非分科的である事は前に述べたが兒童の生活そのものが教師の頭で考へればまことに少價値なものでも其れは地理生活の萌芽を多分に有してゐるものである。即ち兒童相互の會話を基礎として地理的の價値等を平面に確實に指導して芽生えた萌芽の培養につとめる事は必要なことである。

3、直觀と體驗を重んずること

兒童の直觀と體驗を重んじて鄕土の特色等を歸納的立證的にしらべさせることが大切である。

4、必要感を基礎として指導する

地理は其の材料の內容が複雜であるだけ各種各般の生活に交渉を持つてゐる。自然方面の事項が兒童生活に關係あることは勿論で、一見これ等は兒童生活に甚だ緣遠い樣に思はれるが、實は兒童は鄕土それ自身の自然にはぐくまれて來たものであるから、唯それが意識に上つて來ないまでゞあり、生活の對象にならないまでのことであつて必然的の環境、存在的の環境としては彼等に多くの影響を與へてゐるものである。故に彼等の生活が此の方面に發展して來たならば、それを適當に指導しなければならない。

5、感覺より測定へ進む樣に指導する

寒いとか、暑いとかいふ人間の感覺は全く個人的のもので之を確實に知るには一定の檢溫器による測定を待たねばならぬ。而も斯くの如き生活こそやがて地理學習の氣候を比較することによつて正確ならしめる所以であり、また一方文化生活を營むに至らしめる最初の道程である。建築だけは洋風を眞似びて額に文化的生活を高調する家庭に於て一本の寒暖計すら備へてゐない所もあるが、是等は外觀的の文化生活であつて、決して眞の文化生活とは言へないものである。

6、當然的發展を重んずること

直觀を重んじて學習してゆく時は當然兒童は其の本質問題にふれて來るものであるから教師は此の機を逸しない樣に指導することが必要である。

7、讀本材料の地理化

讀本材料には部分的ながら、基本觀念養成に資する材料や地人相關の理法を理解するに都合よい材料や、國際關係を知らしむるに適當なる材料もあるから之等を利用して兒童の地理生活の發展をはかることは有効である。

第二節　中學年に於ける地理指導

低學年時代の兒童生活の特色は凡ての學科が合科的取扱に程よい樣に出來て居り、未分科的であることである。

中學年の兒童生活の特色は未分科より分科へ畝れる過渡期に當つてゐることが明かである故に地理らしい地理は中學年に於ても行はれない。然し乍ら新教育は概念から演繹的に實物に到着して夫を指示するものではない。彼等の生活の材料を取つて以つて教育の材料とするものである。生活から芽生えしめる教育が――新教育の一方面なのである。中學年に

於ける教育材料の中で又、重要な意義を有するものは從來あまり重要視されなかつた鄉土が如何に重要であるかゞ考へられやう。

新教育に於て、鄉土が重要視されるのはそればかりではない。同時に個人の感情意志陶冶が大自然によつて練磨されるのは鄉土をおいて外に何物もないからである。

一、鄉土地理の指導

イ、指導の原理

我々人類の生活は過去から現在に、また現在から將來に進展して行く。しかもそれが永劫に大地に即してゐるから、此の生活の考察には大地との交渉の究明が最も重要なる位置を占めてゐる。

しかも其の究明の第一歩は先づ我々の眼前に展開してゐる鄉土の風土と生活との關係を實証するにある。

即ち吾々は最も親しみ深い鄉土――それが村落にしても、また都市であるにしても――に就いて其の生活の地域的實在を認識し、それを基準として更に國土と國民、世界と人類への實在的關係の認識に展開して行かなければならない。

かくて鄉土の科學的認識は夫自身に於て意義深いばかりでなく國土のまた世界の科學的認識への出發点たり得る。

現今鄉土地理に對する目的として唱へられてゐるものは、次のやうである。

「鄉土の自然、人文の事項を利用して、地理教授に必要なる基礎觀念を授け、尙鄉土の理解をはかり、かねて愛鄉心を養成するを以て目的とす」とある。

吾々の生活は自然的環境によつて種々に影響され、支配され、或は適應した結果として、各種多樣の生活を營んでゐる。此の生活の樣式を取つて行くのが地理であるから、地理科の第一歩は自然の中に自己の生活といふものを見出さしめることが最も肝要である。即ち自然的事項の下に制馭され、影響され、而して順應してゐる各般の生活狀態それ自身を自己の經驗してゐる生活の實相の中に見出さしめ樣といふので、其の生々した實感を基調として、後の地理の學習を最も有効に進めて行きたいといふのである。

之は畢竟するに鄉土に於ける生活の理解である。

鄉土に於ける社會的事實を知ると同時に其の間における、自己との關係を闡明にして社會的生活の眞義を知らしめんとするのである。

故に私は將來の鄉土地理の目的は「鄉土に於ける生活の理解を圖り、鄉土の自然人文の事項を利用して、地理教授に必要なる基礎觀念を授け、かねて愛鄉心の養成につとむ」とあるべきだと信ずるのである。何故にさうあるべきかは、前から述べて來たことによつて明かであると思ふ。

かく鄉土に於ける生活の理解が出來、鄉土から受ける恩惠が分つて來ると鄉土に對する親しみを增し愛鄉心が起る。この愛鄉心はやがて國を愛する愛國心となる。

ロ、指導の要項

指導の要項を述べる前に研究せねばならぬ問題は鄉土の範圍であるが、此の範圍は個人々々によつて異るべきと思ふ。

即ち一家を以つて鄉土となし、一町村を鄉土となし、一縣を以つて鄉土とし、地理區を鄉土となし、祖國を以つて、鄉土となすが如く區々である。此の中學年に於ては一町村を以つて鄉土の範圍とするが適當と思はれる。然らば如何なる要項を指導するかと見ると

一、自然地理方面

1、天文現象

(一)太陽の出入の時刻
春分、夏至、秋分、冬至等の。
(二)位置
縣内のどの邊にあるか。
(三)方位
自宅は鄉土政治の中心地よりどちらにあるか。
東西南北はどちらか。圖上に於ての四方をさせよ
(四)距離
主要地点の距離測定をなす。一キロメートルの實感
(五)面積
一平方キロメートル。一アールの廣さの觀念、及鄉土の面積の理解。
2、陸界現象
(一)山
山脈とはどんなものか。山の高さはどの位か。火山は。どんな植物があるか。人文

との關係は
(二)平野
平野とはどんなものか、どうして出來た平野か、廣さはどの位か、田と畑とはどちらが廣いか、何が作られてあるか、よく出來てゐるか、どの位とれるか、土地は整理してあるか、一戸どの位耕してゐるか、雨量は適當であるか、家は平野のどのへんに多いか、どの位人が働いてゐるか、地圖と對照
(三)河川
どこから流れてどこへ流れるか、川幅は廣いか狹いか、深さはどうか、川の流れの早さはどうか、水量はどうか、どんな事に利用されてゐるか、舟は通るか、大洪水が起りはせぬか、魚類は多いか、風景はどうあるか、發電所はあるか
(四)湖沼
どうして出來た湖か、大きさはどれ位か、水量は多いか、舟が通ふてゐるか、魚類がとれるか、風景はよいか、水はどこから流れるか、田に流れてゐるか、氣溫とどんな關係があるか

(五)海岸

海岸は絶壁かどうか、出入はどうか、後方は平地か又山地か、良港があるか、海岸線はどれ位か、海岸は遠淺であるか、住民はどんな仕事をしてゐるか

(六)海洋

外海か、内海か、波は高いか、潮の干滿の差はどれ位か、海水は暖流か寒流か、深淺はどうか、何が取れるか、舟は多いか。

(七)溫泉

どうして溫泉がこゝにあるか、湯は多いか、なぜ人が集るか、お湯屋がどれ位か、入浴者は一年どれ位か、一年どれ位收入があるか

(八)氣候

一番暑いのは何月頃で何度位か、又一番寒いのは、年平均氣溫は何度位か、全國から見ての溫度は、雨量はいつが多いか、又何度位か、年どの位ふるか、全國から見ての雨量は、雪は多いか少いか、氣候と人々との關係は。

二、人文地理方面

(一)產業

どんな產業が最も盛んであるか、其の產額はどれ位か、どの邊に盛んであるか、どんな產物がとれるか、どちらに賣り出すか。

(二)農業

農田はどれ位あるか、作物はよく出來るか、どんな物が出來るか、一ヶ年どれ位とれるか、どこへ賣り出すか、水は多いか、何故農業が盛んなのか。

(三)牧畜業

何が多く飼はれてゐるか、牧場はどの位の廣さか、頭數はどの位か、何に利用されてゐるか、なぜ發達したか。

(四)林業

どの種類が最も多いか、それは何故か、廣さはどの位あるか、何に使つてゐるか、運搬法は、製材所はどこにあるか。

(五)工業

どんな工業か、工場は大きいか、動力は、職工は、製品の賣先はどこか、原料はど

こから來るか、どうして持つて來るか、一年間の製造高はどれ位か。

(六)鑛山業

どの山に屬するか、どんな鑛石がとれるか、工場があるか、何人位の坑夫がゐるか一年中にどれ位採れるか、どれ程までとれる鑛山か、鑛山があるためにどんな利益があるか。

(七)水産業

どんな魚が多いか、どんな方法で捕へてゐるか、年中の取れ高はどれ位か、どの邊で取るか。

(八)商業

どんな商品があるか、それはどこから送つて來たものか、値段は、品質はどうであるか。

(九)交通

陸上——何線が通つてゐるか、日に何回位通るか、どんな方面へ行く線か、貨物は多いか、隣の停車場はどこにあるか、主なる驛までの時間、賃金はいくらか。

自動車、電車の數はどの位であるか、道路はどこへ通ふてゐるか、主なる土地までの自動車賃金はいくらか。

海上——港からどこへ行つてゐるか、どの位の船が入る港か、どんな貨物が來るかどれ位來るか、外の港はどんな物をつんで行くか。

(十)通信

どこと通信してゐるか、どこで取扱つてゐるか郵便局はどんな仕事をする所か。無線電信はどこと通信するのか、海底電線はどことしてゐるか。

(十一)政治

鄕土をおさめるにはどうなつてゐるか、市町村長はどなたか、鄕土をおさめてゐる役所を何といふか、議員の數はどの位であるか。

(十二)經濟

銀行はどの位あるか、どんな銀行がどこにあるか、銀行は何をする所か、銀行の倒れるのは何故か。

(十三)教育宗教

どんな學校があるか、どこにあるか、どんな教育をする所か、學校の廣さはどの位か、學校の生徒數は。どんなお宮がどこにあるか、だれがお祭りしてあるか。どんなお寺があるか、どんな宗教のお寺であるか。

(十四)名所舊蹟

どんな名所舊蹟があるか、何で名高いのか、之がため遊覽客は多いか、鄕土はどんな利益を受けるか、どんな態度が必要であるか。

ハ、鄕土教材の選擇上の注意

一、鄕土に於ける地人相關の理の模式的なるもの。

二、鄕土材料の中でも直觀に便利なるもの。

三、兒童の心理發達に適し理解に容易なること。

四、地理實習に便利なるもの。

五、他教科にあらはれたる地理教材にふさはしい材料。

六、愛鄕心を養成する上に最も重要なる材料なること。

ニ、鄕土地理指導の要領

(1) 實地の指導

一、臨地觀察前の指導

○教師の實地踏査により觀察の要点を握る。

○材料の蒐集、知名の講話を聞き目的把捉。

○目的を大体兒童に話す。

○經路圖を與へ觀察要項を記入しておくこと。

○臨地での教授要項は鄕土地理書によること。

○携帶品として

鉛筆、小刀、ゴム、ノート(紙質稍却く着色のよい物)、物差、地圖、チョーク、測量用器具

二、臨地の觀察の指導

○展望よろしき場所なること、成るべく高地。

○平地ではゆつくりした場所をえらんでおく。

○指導要項を必ず忘れしめぬやうにする。

○特に說明して下された方の氏名住所を記入して置く。
○準備のあるものは寫眞器で撮影せしめたい。
三、臨地觀察後の指導
○觀察した鄕土事項を作文せしめる——內省する
○地圖をかゝしめて實地と對照せしむ
○繪畫をかゝしめて地圖の比較を行ふ
○簡單な模型圖を作製せしめて徹底を期す
(2) 鄕土教育の際に指導
○他教科の場合鄕土を利用して理解せしむ
○尋四以下に於て指導すべきである
二、經濟生活の指導
イ、指導の原理
此の問題については前章に於て幾度か繰り返へされたので最早言盡されたかと思ふから略する。

ロ、指導の要項
此の時代には實地に見學して指導することが必要である。兒童は漸次現實的なものへとかはりつゝあるのであつて、低學年の頃よりも日常生活に必要な衣類に屬するもの、食物に關するもの、住に關するものゝ數が多くなつて來るので、これ等の價格及び品質の見分け方を指導する。
地理を日常生活上に生かす方法として、今後しば〳〵行ふことは必要なことであらう。
三、基礎觸念の指導
イ、指導の原理
地理學習に於ては必ず基礎觀念を養成しておかねばならぬといふがその基本觀念として如何なることを養成して置くべきやと問ふと漠然たるものがあらう。而らば基本觀念とは如何なるものであるかといふに、直觀地理によつて得られた一般地理學習に缺くべからざる地理的概念である。
此の概念を作るは日本地理に入る前を可とする。即ち尋四の終までに一通り授げることが必要であらう。

中には尋常五年の初めに數時間を取つて基本觀念を養成するといふ說もあるが、これは時間不足のために徹底しないし、日本地理の敎授時數を侵蝕するのはあまり好ましい事ではない。

ロ、指導要項

(1) 天文現象

一、方位の觀念　此の觀念のないものは地理學習はだめである。四方を授けるだけでなく、實際に會得させねばならぬ。實地についてやるばかりでなく、圖上に於ても方位の觀念を與へねばならぬ。

二、位置の觀念　地理學習上位置を忘れぬことはいふまでもない。鄕土に於ける自宅の位置、鄕土の縣內に於ける位置等を知らしめることが肝要である。

三、距離の觀念　一キロメートルを單位としたものにしたい。これは算術學習と關係づけてやる必要がある。目測實測、步測による練習が必要。又兒童の通學區及び名所間の距離等、學校元標を置いて距離に對する基本觀念を明確にして置く必要がある。高さは學校附近の山の高さを知らせておけば、他地方の學習に役立つものである。

四、面積の觀念　平方メートル、平方キロメートル、アールについて敎室、運動場、校地等の實測、目測から直觀によつて知らせる。一方里とは四キロメートル四方であることを知らせる。

(2) 陸界現象

一、山地……山岳、山脈、分水嶺、岡

二、平野……平地、平野

三、河川……上流、中流、下流、河川と平野、人文關係

これ等の觀念を養成するには實際附近の山に登つて、直觀せしめ實驗せしめて養成すべきである。

先づ谷はどうして出來たか、どんな場所にできたか。

四、海岸……沿岸、出入、岬、半島、灣、良港

五海洋……海峽、地峽

これ等は海岸に出て觀察せしむべきもので、川が海に注げる有樣、海岸の屈曲してゐる有樣から港灣の出來た理由を理解させる

六、氣候……溫度、雨量、風向

これは低學年の時から指導してあるのだから尙よく了解出來るであらうが教室內に寒暖計を用意してグラフをつくらしめ、風向は風針儀を用意するとよい

雨量は天氣豫報の部を參照する外あるまい。

人文現象

一、產業……農・牧、林、鑛、工、漁業。產業と生活、人口。

これは鄉土の此の方面を理解することによつて基礎觀念が養成される。

二、交通……道路、鐵道、航路等の基礎觀念

鄉土の道路の通じてゐる有樣や、何のために通じてゐるかといふことから其の效果を考察させる。

汽車電車のある所では敷設の目的や影響を學ばせる。港の附近ではその港から船がどこに行つてゐるかといふ事を知らしめ其の航路の目的を知らしめておく。

三、政治……市町村の政治方面の基礎觀念

四、都邑……都邑と產業の關係、都市の特色

都市は產業其他の關係によつて發達すべきものであることを有機的に理解せしめる

五、神社佛閣、名所舊蹟。

此の神社は誰を祭つてあるか、此の寺はどうした寺か又人がどんなに參詣するか、其れのあるためにどんなよいことがあるかといふやうなことを指導する。

讀圖の觀念

自然地理方面と人文地理方面の基礎觀念だけでは地理學習の基礎が完全に出來たとはいへない。即ち讀圖の觀念がなかつたら地理學習の完璧を期し得ないのは明かである。直觀によつて地理の基礎觀念を養成して置くことは、極めて大切なると同時に、鄉土の地圖の知識が將來の讀圖上極めて大切なものである。地理學習に地圖に必要なことは喋々を要せないことである。

然らば讀圖の觀念には如何なるものが必要であるか。

一、平面圖の觀念と作り方

兒童の觀察は一側面を見て立体的でないことはしば〳〵我々が感ずることである。しかし觀察を進めて行くとあらゆる方面から見て更に平面圖に到達するものである。そ

こで貝殼のやうなものを示して横から見た形と上から見た形とをかゝしめ、前者を側面圖といひ、後者を平面圖といふことを知らしめる。

かうして實地から進めて行くことが必要である。

二、縮尺と縮圖

今貝殼を用ひたのは縮尺の必要のないものを取つたのだが、今度は教室の實際通りかゝしめると不可といふ。そこで教室の割合をかへないで長さをちゞめて平面圖を作ることを考へしめ、長さを十分の一にしてかゝれるものだと分らせる。かやうに長さを縮めた尺度を縮尺といひ、縮尺で作つた圖を縮圖といふことを授く。

こゝに注意すべきことは、長さを縮めたので、面積を縮めたものでないことを知らしめる。

縮尺十分の一の圖とは實際上の長さを十分の一にしたのであつて、面積は百分の一になつてゐることを理解せしめておかねばならぬ。

三、圖式

鳥瞰圖、ポカシ圖、コントル圖、毛羽圖等まで行けたら指導したいものである。

四、諸記號

これも出來るなれば地理附圖の初めの諸記號を簡單に一通り授けたいものである。

方位の觀念についてはこゝでは省くことにする。

ハ、基礎觀念指導の要領

一、郊外教授の利用

從來のやうに單に狹い範圍の鄉土に於て、直觀的に地理を學ばせ、此の鄉土地理によつて出來た基礎觀念だけで他地方の地理を學ばせるといふことは不充分である。そこで鄉土のみに限らないで遠足、其他旅行を計畫的に有効に行ふやうにして基礎觀念の豐富と確立とをはからねばならぬ。

二、鄉土地理の利用

鄉土地理によつて基礎觀念を養成することは之までも度々論じて來たことであるから略するが鄉土地理の目的である鄉土の理解と基本觀念の養成との何れに重きをおくかこの問題についても今まで述べて來たのであるが今此處に於ても鄉土の理解そのものに主力を注ぎたいと思ふのである。

卷	題目	自然	人文	實習
五	私のうち		市街地の交通、田舍の家屋	
五	遠足	圖上の方位及縮尺、諸記號		略圖の指導、方位、道順距離、記號
五	峠から町		生産と消費との關係	鳥瞰圖を地圖に直す方法
五	日本三景	自然と風景との關係、特色、位置		
五	東京驛		東京驛の特色、大都會の觀念	東京市地圖の讀方
六	日本の高山	高山と名山との區別、山系高山と氣候		
六	賀茂川	川と人生關係	京都の今昔、大都市の觀	市街圖の見方指導
六	伊勢參宮		宗教都市の模式	神宮附近の讀圖
七	世界	日本帝國の位置五大國		世界地圖の讀方
七	横濱	横濱の位置、港の有樣と觀念	輸出入品と取引國、京濱間の交通、航路	港の擴大圖の讀方指導
七	大阪	大阪市の位置	工業市としての模式河川と都邑、大貿易として。阪神間の交通	大阪市街地圖
七	航海の話		航海及び燈臺の觀念	
七	大連便り	大連の氣候	町名と町の有樣、神戸から門司からの航路、波止場、貿易狀況	大連の地圖の讀方指導
八	揚子江	支那第一の河水量	流域と産物、貿易關係	流域の地圖の讀み方

八	アメリカ便り	サンフランシスコの位置、カルフォルニヤの氣候地味	桑港、市俄古、紐育の有様	アメリカの地圖の讀み方
八	名古屋市		我國屈指の大都會、商工業と産物、名古屋城、熱田神宮	名古屋市及び其の附近の地圖の讀み方
八	コロンプスの卵	西印度諸島、イスパニヤの位置		
八	啞の學校		ハワイの地理	

の如き材料があるのであるから利用して、基本觀念の養成の留意すべきである。

第三節　高學年に於ける地理指導

尋常五年から教科目として地理が課せられる。地理教育は高學年のみと從來の如く考へるのは早計である。

々は高學年に於ける地理科を徹底せしめるには、是非とも其の建設期の豫備として、學年、中學年の地理的生活を善導ぜねばならないことは今まで述べて來たのである。

此の指導過程なくして地理教育をなすならば、眞の地理教育はなされないものである。

更に地理教育は學校内のみに留めないで、教授を終つた後に於ても兒童各自に自分で地理的生活に興味をもたせて、永く教育の効果を上げるやうにしむけることが最後のねらふべき問題であると思ふ。

是を地理教育の全野より眺める時は低學年及中學年に於ける地理的生活の指導は地理教育以前の豫備的指導といつても過言ではあるまい。

高學年に於ける地理指導は、地理教育以前の地理的指導を根抵として、地理指導をなし、地理教育以後の地理的自覺を促すのが其の地位ではあるまいか。

換言すれば地理教育の豫備時代より實現時代への過渡時代であると言へる。

一、地理書の指導

イ、指導の原理

高學年の獨自性は教科書によつて教材の源泉を供給することである。それ以前の教材は何等標準を示すことなく各方面より適當なる材料を選擇するのであつたが、本學年より

は一定の範圍が示されてある。

吾等は地理書の精神を審かにすることが先決問題である。今如何なる方針の本に編纂されてあるかを見ると、

(1) 材料の大觀　教材を精査したる上に國家的の立場に於て大局に着眼したといふのである。

(2) 地人相關　自然と人文との聯絡交渉の關係を考察留意されてある。

(3) 記述の具態化　地理科指導に於ては具体化が必要な事は前述したが此の方面に留意されてある。

かく地理書は教材の源泉を供給するものであるから充分編纂の方針を研究すべきことは述べた通りであるが更に內容を精査して活用する態度が必要である。

教科書は活用すべきもので把らはれてはならないものである。地理書の材料は全國の兒童を對象とすべきものであり、教材の大觀であり、叙述は極めて劃一的である。

故に指導者は教材の撰擇上、教材の研究上輕重を附し

即ち

(1) 國家的教材

(2) 地方的特色をあらはす材料

(3) 鄕土に關係ある材料

(4) 學習の模式的材料、地理基本觀念養成に適當なる材料等を重視し、地理書の地方化をはかることが必要である。

ロ、指導の要項

(1) 地理書の記述法

(2) 地理書の使用法

(3) 地理的用語の指導

是等の實際は各學年の所で述べることにする。

二、讀圖の指導

イ、指導の原理

地理學習上讀圖の重要なることは之まで論じて來たことであるが、讀圖指導には單に圖上の記號を讀むのみでなくて記號を通して內在するところの地理的理法なり、地理的現

象なりを讀むことが重要であつて、こゝまで徹底して始めて讀圖の目的が達成せられたといふべきである。

而して高學年に於ては地理附圖によつて指導することが、最も有効である。尙又地理附圖は確かに高學年地理の一特色であることを見逃してはならない。

ロ、指導要項

讀圖の基礎觀念に如何なるものが必要かといふ事は中學年の基礎觀念の部に述べた通りであるが、讀圖について整理することは中學年より高學年に進む過程に於て是非行はれねばならぬ。而も讀圖の基礎觀念は五年の部類が之を整理する意味から云つて順である今此處では高學年全体に通ずる讀圖指導上の一般的要項を記す。

(一)數理地理に屬する讀圖上の要項

(1) 方位の觀念。

(2) 位置の觀念、經度、緯度上、自然的位置。

(3) 圖根…性質を理解せしむ。

(4) 圖題について內容を讀む。

(5) 全体圖と部分圖との關係

(6) 距離の觀念…縮尺に注意

(7) 面積の觀念…描法に注意

(8) 境界(州界、國境、地方界、府縣界、都市界)

(9) 區域(地理的の區域、行政區分、地方區分)

(10) 縮尺の觀念

(二)地勢に屬する讀圖上の要項

山、山脈、峠、丘、臺地、高地、高原、火山、山地、火山脈、平地、平野、盆地、低原、平原、凍原、砂漠、不毛地、溫泉、河川、湖沼、沙丘、谷、瀑布、三角州、砂嘴珊瑚礁、準平原、氷河、海岸、海洋、海岸線、半島、岬、港灣、灘、浦、島、列島諸島、海峽、水道、海流

(三)氣候に屬する讀圖上の要項

緯度、水陸の分布關係、海流、海拔、地勢、等溫線、等壓線、降水量、氣候帶、氣候による特別地形、內陸地形

(四)産業に關する讀圖上の要項

山地、平地、耕作地、金山、銅山、銀山、油田、油井、炭田、森林地、各種産物の分布、漁場、製鹽地、鹽田、産物の産地産額、發電所、送電路、輸出入、貿易取引先、各種の産業圖

(五)交通に關する讀圖上の要項

鐵道、幹線、支線、既成、未成、トンネル、地下鐵道、高架鐵道、登山鐵道、軌道、運河、航路(外國航路、內國航路)、電車線路、海底電線、無線電信局、燈臺、寄航地道路、橋梁、內陸水路、國際河川、隊商通路、自由港、航空路

(六)都邑に關する讀圖上の要項

各國首府、主要都市、府縣廳所在地、名所舊蹟、其の他の都邑、城壁、村落の分布、公園、神社、佛閣、學校、司令部の所在地

(七)人種に關する讀圖上の要項

人口分布、人種分布、移民の現狀、宗教の分布圖

(八)生物に關する讀圖上の要項

ツンドラ、沙漠、荒地、森林、農牧地、高山植物。

(九)政治に關する讀圖上の要項

首府、國境、植民地、領地の改正、獨立國、附屬國、自由國、中立國、條約國、世界列國の勢力分布。

ハ、指導の要領

(1) 有機的に讀圖を指導する。

有機的に讀圖を指導するとは凡て相關的に取扱ふことを意味して單に圖上にあらはれたるものゝみに留めずして、內容までも深入りさして指導さすることである。斯くの如くすることは讀圖上常に取扱ばねばならないし、兒童の學習能力もかくの如き指導に依つてこそ充實して來るものである。

(2) 地圖中心の學習が緊要である。

讀圖の出發点は地圖に依ることは明かである。常に地圖に親しめ、地圖の必要感を切實ならしめ以つて日常生活の讀圖化まで到達させねばならぬ。

地理學習に於ては地圖が中心であつて、教科書は其の說明であるから特に注意すべき

である。

而も地圖の表圖と裏圖の指導は兩々對立して指導さるべきものであるが表圖の活用に偏して裏圖が利用されないやうな感がある。

(3) 兒童の學習力に應ずる樣に指導することが緊要である

地理學習上讀圖指導程困難なものはあるまい。系統的に讀圖力を養ふやうに注意しても向上といふことは困難なものである。そこで各個人の讀圖能力に應じて指導することが最も必要で効果あるものである。この讀圖能力の測定については後で述べるつもりである。尙全体觀より見たる讀圖指導は大切である。

(4) 自主的學習態度が緊要

自主的學習態度養成の指導上重要なことは喋々を要せず、啻に讀圖指導上重要なるのみならず、教育の原理として十分に必要である。

然らば自主的態度の建設法は、基礎的材料を十分に學習し得る能力の必要と、自主的態度の養成までの指導者の努力の外にないのである。

常に教師は細事に亘つて基礎的指導をなし、更に兒童に讀圖能力が出來たらば自主的

に學習する態度に導く態度でありたい。

即ち讀圖指導の原理は指導者の手腕と兒童の自主的の讀圖學習による外ないと思はれる。

(5) 讀圖指導には教科書と連絡をとること

地圖と教科書とは常に連絡すべきもので、地圖上の事を教科書にはどんなに書現はしてあるかといふ兩者の對照によつて讀圖力を深めることが出來る。

裏圖に注意せなければならぬことは前に述べた通りでよく注意せないと他地方の部分に入つてゐることがある。即ち教科書の本文と地圖と連絡をはかり、挿繪と地圖と連絡をはかり、部分圖と全体圖と連絡せしめ、附圖と掛圖と連絡せしめて、讀圖の指導を進めたいものである。掛圖は全部の兒童に着目さして、其の要点が明かになれば充分であるから、地圖と近似のもので鮮明にして要を得、新しきもので全兒童に明瞭に了解されるものでありたい。

(6) 地圖の圖根に留意すること

地圖を同等の圖であると見るときは讀圖上大いなる誤りを生ずるものである。故に教

師は描法による主眼点を確實に理解して指導せなければならない。勿論各描法を兒童に說明する要はないが、今試みに地球面を平面にする順序を考へると、先づ比例尺を設けて實際の距離と地圖面との割合を確實にし、經緯線を描いて圖の根本即ち圖根を表示し、適當なる圖式によつて地貌を現し、記號や文字を記入し必要なる場合は彩色を施し、補載を終るまでのことにして、其の中比例尺、圖根、圖式、補載は地圖製作の四大要素である。

今尋常科の地圖の圖根と其の特色を示すならば

(1) 多圓錐圖根

イ、中央經線及中央緯線は共に直線を以て表示せられ、他は皆曲線にて表はさる。

ロ、舟底形の部分に於ては面積距離眞形に近きを以つて其の集合より成れる地圖は又眞に近きこと勿論なり。

ハ、中央經線を遠かるに從ひ地形漸次不正確となるが故に東西に幅廣きアジヤ洲の如きは地形精密なる能はず。さればアフリカ洲、南北アメリカ洲の如き南北に細長き土地を描くに適す。

ニ、本圖法の最大長所はは地球儀に貼附する地圖を描く点にあり。これ「地球儀圖法」の名ある所以なり。

(2) 割圓錐圖法

イ、中央緯線上に於ける土地は實際の長さの割合よりも短く表はる。

ロ、圓錐形と球と切合ふABの二緯線上に於ては距離面積殆んど眞形に近し。

(3) ボンヌ圖法

イ、緯線は皆中央緯線と同心の圓孤なり、經線は中央經線のみ直線にして他は皆彎曲線なり。

ロ、緯線は中央緯線を去るに從ひ次第に不正確となれども、經線は實際の縮尺なるが故に眞形に近し。

ハ、最大特色は面積を正確にあらはす点である。即ち同一の二緯線間にある四邊形の面積は中央にあるも、周邊にあるも殆んど同一なり。されど廣大なる地域特に經度大なる幅廣き國を描けば著しく斜となり、兩端の地形歪みて不正確となるを免れず。

ニ、方位は經緯線によりて知る。

(4) メルカトル圖

イ、最大長所は方位を正確にする点である。圖中何れの点にても上下は南北、左右は東西の方向を示す。故に圖上に於て任意の二点を結ぶ時は直ちに二点間の方位線を得るなり。即ち航路の如きも直線にて表し得る利益あるを以つて專ら航海圖に用ひらる。

これ航海圖法の稱あるわけである。

ロ、經、緯線共に直線にて表はさる。

ハ、經線の幅が赤道地方に於ては高緯度地方に於ても幅が等しくあらはさる。

ニ、緯線は赤道を遠ざかるに從ひ漸次延びて大となり、著しく比例を失ふ。

ホ、赤道地方に於ては面積眞に近けれども極地に近づくに從ひ幅著しく大となり、其の比較に用ふべからず。緯度六十度にては實際の四倍大に、緯度八十度にては三十六倍大にあらはさる。面積の比較に用ふべからず。描法簡單なるが故に各種の分布圖に使用さる。

(5) サンソンラムスチード圖

イ、緯線は各平行なる直線なれども經線は中央經線のみ直線にて示され、他は皆曲線なり。

ロ、ポンヌ圖法と同じく面積を割合に正しく示すの利あり。即ち赤道地方にして且つ中央經線に近き所は最も眞形に近し。人種分布圖を描く等に用ひらる。

(6) 立體的讀圖指導に留意する。

讀圖の指導を單に平面圖のみによることは餘程困難である。吾々に平面圖の指導と共に立體地圖の觀念に留意せねばならぬ。地理の基礎觀念が確立してゐなければ平面圖の立體化も困難である。

斷面圖を利用したり、模型圖を利用したり、砂模型を製作する等の方法ではかるがよい。が何時でも立體圖を用ひることはあらゆる不便を要するのであるから出來るだけ平面圖を立体化するやうにする。それ等基礎材料は地理附圖の第一圖にある、ケバ等高線、陸高、水深、ボカシ圖、ケバ圖、曲線圖、ケバ曲線圖、繪畫と地圖等を徹底せしめておくべきである。

(8) 地名を明かにして置くこと。

三、地理實習の指導

イ、指導の原理

教育の新傾向として勞作教育が叫ばれ、地理科の本質上から地理實習の主要なる事は地理科學習の本質の章にて詳說した通りであるから重複をさける。

實習による學習はあくまでも兒童の發動を主として行はしむるもので、而も其の學習は感覺器官を通しての直觀的なものでなければならない。

兒童に確實な知識を與へ而もよく理解せしめるには唯々言語、文章のみによりて學習せしむるに留まらずして、實地に見聞せしめ、且つ筋肉の運動にも訴へねばならぬ。地理實習は直觀的である程確實となり、自發的になす程實力は練成されるものである。

ロ、指導要項

如何なる實習を課すべきかについて吾々は先づ實習の性質と兒童の程度並びに教授時間の關係等を考慮して決定せねばならない。次に兒童の程度に適し、尙地理科指導上意義のあるものを擧げると

(1) 觀察的實習

これに臨地觀察と地圖に就いて地理的事實を觀察することの二方面がある。

一、面積—廣さはどれ位か

二、地勢

○平野—どんな形か。廣さはどれ位か。どうしてできたのだらう。

○河川—河川の方向はどちらか。上、中、下流の有樣

○山系—山系の走向。傾きはどうか。火山のならびは。

○海岸—屈曲はどうか。砂濱か。深さは。海流はどうか。島嶼はどうあるか

○地勢と氣候との關係はどうか。

○氣候と人文との關係はどうあるか。

○地勢と人文との關係はどうあるか。

三、氣候—氣溫はどれ位か。雨量は、風向はどうか。

四、住民—人口の數。密度はどれ位か。風俗はどうか。生活狀態はどうあるか。

五、產業—どんなものがとれるか。どのあたりか。產額は。どちらに賣り出すか。ど

うして造るのか。產物の特色は何か。需要と供給との關係はどうあるか。

六、交通―どんな交通機關があるか。其の徑路はどうか。產物の輸送の狀態はどうか

(2) 描圖的實習

學習しつゝ描圖を行ふ場合と、專ら地圖を描いて行ふ場合とがある。この描圖によつて觀察を深め、地圖の表現法を理解せしめる。

一、實測圖

教室、學校、家屋等を兒童に實測せしめ算術や圖畫等と連絡せしめて行ふとよいのである。尋常四年頃から五年の初期にかけて行へばよいのである。

二、透寫圖

原圖の上に薄紙を置いて透寫せしめる方法で、最も容易なもので尋五初期の如く描圖になれない兒童も速く正確に描かれるものである。これは單に模寫に過ぎないので實習的價値は少い。描圖法の初期又描圖能力の劣る兒童にかゝしめるがよい。價値の標準は原圖に近いものをよい事にする。

三、白地圖

白地圖に要項を記入するもので從來實習といへば此の方面に主をおかれたやうである。白地圖に記入せしめる際は原圖と比較せしめて學習するやうに留意せねばならぬ。而も記入せしむる要素は少いのがよい。五年に於ては三要素位まで六年に於ては五要素位高等一年に於ては全要素、高二に於ては分布圖の作製をなす。

人文的要素の描圖は地文的要素の描圖より餘程容易なものである。地勢圖と人文的圖と比較描圖せしむるが好結果を得る。等高線附白地圖はあらゆる場合に役立つが最初は困難を感ずる。更にクバ式に描圖せしめることは困難である。尋六の初期には地形の傾斜位あらはされるやうに指導したいものである。それに附圖の裏圖を利用して描寫せしめることである。

白地圖記入の要点は原圖を如何に利用してゐるか。

誤圖の少きことである。

四、略圖

原圖を見て略圖的に描かしめる方法で描圖的實習中最も重視すべきものである。尋五の初期に透寫圖、白地圖で實力を練磨すべきであるが、漸次略圖を描かしめるこ

とは重要なことで描かしめるには

イ、幾何形體を標準として描く方法。簡單なるのみならず比較的正確なるの長所がある。例へば南米を描くに三角形を標準として描くが如し。

ロ、基線によりて描く方法。部分圖を描くに適す、輪廓よりも內部の山脈、河川、都會の分布圖を描くに適する。

ハ、經緯線を描きて其の上に描く方法

ニ、初めより模寫する方法

等あるが學年に應じて科學的に系統を立てゝ進むべきである。畧圖は其の目的を達するが爲に簡單にして、迅速、且つ要点に着眼して描くことが必要である。

而しどの程度まで要求すべきものであるか今後研究の餘地ある問題である。吾々は此の三要素を具備せる地圖を描くには常に地圖に親しんで熟練と經驗とを積む樣に指導せねばならぬ。

五、斷面圖

地勢の立体的方面を明確にする上に最も有効で五年の第二學期頃から始めたらよい

しかし尋五の初期に斷面圖は取扱つてあるが斷面圖に就いて十分理解され、如何にして描かれたものであるかを徹底されなければ不可能である。

斷面圖を描く場合に注意せねばならぬ所は、平面の縮圖に比して、立体の縮尺である。

要するに縮尺は水平垂直共に正確にして、地形の斷面が位置の變化がないやうにし同等高のところを巧に立体化してあることがねらひ所であると思ふ。

六、擴縮圖

基線を頼りに原圖を擴大又は縮少して描かしめる方法で正確なる地圖を描き、描圖の能力を練ることが特色である。基線は多く經緯線であるから經緯線が理解されない間はあまり取扱はぬがよい。擴縮圖は圖根を充分辨へてから行はねば誤謬に陷ることがある。同じ圖根による擴大圖ならばよいのである。

七、記憶圖

記憶によつて正確なる地圖を描かくは誠に望ましき事であるがこれは普通に要求し得べきことではない。然しどんなにして記憶せしめる法がよいか。

イ、原圖の讀圖を確認せしめること。
ロ、描圖を常に練習せしめること。
ハ、地圖を象形化して記憶せしめること。
ニ、地體構造を明かにすること。
ホ、特色をとらへて描かしめること。

要するに全体の形はどうか。重要な地点が正確にあらはされたか。如何なる方法で描いたのか。要求点が明かであるかゞねらひ所であると思ふ。

八、記號圖

讀圖上記號の重要なことは言ふまでもない。そこで一學期一回位は記號を描かしめることが必要である。

九、圖　式

水平曲線圖、暈滃圖　暈渲圖、直射圖、平射圖等は共に小學校の圖式の基礎的なものであるから指導者は其の原理に通じて出來るだけ練習せしめたい。

而らば如何なる地圖を描かしめるか其の主なるものをあげるならば、

平面圖（教室）（校舍）（自宅）（郷土）
位置圖（日本全圖）（地方圖）（區分圖）
地勢圖（山系圖）（水系圖）（平野圖）（斷面圖）
產業圖（農業）（工業）（鑛產業）（林業）（水產業）（牧畜業）
氣候圖（氣溫）（雨量）（風向）（海流）（氣壓）
交通圖（陸上）（海上）（航空）（海底電線）
住民圖（人口分布）（民族分布）（移民分布圖）（人口密度）
都邑圖（都邑分布）（市街圖）
其　他（半球圖）（各種分布圖）

(3)　製作的實習

諸種の模型地圖、標本の蒐集及び製作に關する實習である。これには多くの費用と時間を要するので充分に調査して教育的價値を充分あげねばならない。

イ、位置の學習

位置を學習するには日本府縣別切拔地圖といふのが雜誌の附錄にあつたが、あれは

表紙は地勢人文方面を現し裏は其の説明がしてあるから都合がよい。あれを府縣別に切拔いて臺紙の上で正確に敏速に仕事をやらせる。斯くすることによつて樂に位置、區域の學習は出來て時間の經濟も出來、理解も容易で正確である。

勿論全兒童に用意せしめることが出來なかつたら數分團にして練習せしめてもよいのである。萬一これも不可能の場合は白地圖を刷つて各兒府縣別に切拔かせてもよいのである。

ロ、地圖の形の學習

地圖の形を記憶して正確なる地圖を描くことは誠に望ましいことである。が餘程困難なことである。しかし最も記憶し易い方法は何んな事であるか。

○略圖を應用して象形化する方法。

初歩の地圖學習には面白味を加へるからよい方法である。例へば四國をカウモリ、九州を猿、近畿を蝶などとするやうなものである。

○幾何を應用して象形化する方法

簡單にして正確な所に長所がある。例へば印度を二つの三解形に分けて考へるやうなものだ。

○周圍の所々を殘して接續する方法

これもたしかに地圖の形を學習するによい方法である。

ハ、地勢の學習

讀圖の指導上立体的觀念養成に困難を感ずる。それには平面圖の立体化が指導のねらひ所である。

○等高線模型

等高線に沿ひつゝ地圖を切拔き次第に低きより高きへ重ねて行く方法で百米毎に切拔くのが最も容易である。

しかし地形によつて切拔線も異なるものである。

○鋸屑模型

製作の初期は模型地圖と平面圖と對照せしめながら作らしめるのである。用意としては縱一米十糎位、横六十糎位で緣が五糎位の箱で內面は黑板の如く塗つた物を用意し、鋸屑は細かなるものを撰んで山脈は褐色、火山脈は赤色、平野は綠色、地殼

となる部分は原色の四種用意する。標準模型を見ながら製作せしめ教師は各分團毎に指導する。最初地圖の形が出來たかを見てよく出來たら原色のまゝの鋸屑を地圖と模型と對照させながら原型を作らしむ。此の際位置の觀念を十分明かにせぬと誤謬を生ずる。原型が出來たものは平野は綠色、山地は褐色、火山脈は赤色を點布して作製する。鋸屑の染め方については鹽基性の染料を求めて、水槽にとかし鋸屑を入れて攪拌するとよく染められる。

これを陽にかはかしておくと理想のものを得られる。尙湖、河の指導は青色を求めて染め其の部分に點布してもよいが又青色のひもを用ひてもよいのである。河川の名は海の部分に記入するとよいが山の名はできないからボール紙を切つて立てるとよい。

○砂模型

これは砂が飛び衞生上よくない上に着色も困難で且つこはれ易いから鋸屑模型の方がよいのである。

○エナメル模型

塵紙を小さく切つて糊で固めつゝ地形を作るのである。略地形が出來上つた時上から一枚の白紙をはりこれを圖面の高低に從つて同じやうに高低を付け原型が出來上つた所へエナメルで以つて山地は褐色、平地は綠色で塗りつけておく。これはこはれないから便利である。

○新聞紙模型

新聞紙をさらして、メリケン粉と混合して竹のさじで小型の模型を作るのである。

○粘土模型

粘土を使つて模型を作るのであるがこれは乾くとヒビが出來てこはれ易い。油ねんどならば比較的こはれないやうで且つ色がついてゐるから彩色の必要がない。

二、產業の學習

○實物使用法

鋸屑模型を製作してあるならば實物をなるべく蒐集して產地の所において學習する方法で兒童の記憶を助けるものである。使用が終つたら兒童に分與するがよい。

○白地圖記入

米麥等と文字を記入するもよいが繪畫化する法が最初にはよいやうである。殊に繪畫を切拔いて點布せしめるのは興味を持つやうである。

ホ、交通の學習

○模型實習

鋸屑模型を利用して汽車模型、汽船模型、レール模型等を用意して地圖と對照せしめて起點、沿線、終點を明確ならしめ、產業と關係づけて其の目的を確認せしめる。

○旅行豫定の製作

旅行案內に依つて各自の鄉土と目的地との交通上の關係を知らしめ、汽車に就いては線路の名稱及び幹線、支線の關係を知らしめ汽車の速力及び目的地到着までの時間を知り、鐵道に關する規定を知らしむ。

汽船については主要航路を知らしめ、寄港地、日數、航路の分布、汽船會社の種類汽船の種類等を知らす。尙又海陸の連絡系統を知らしめる。

ヘ、都邑の學習

人口に比例して都邑の大小をあらばさしめる。主要都會に起つた事件等の實演等をなさしめて趣味を持たせる樣に指導する。地名の一覽表製作も面白いことだ。

以上製作的實習を述べて來たのであるが此の外に產物標本の蒐集調査や繪葉書の蒐集等もよいことである。

(4) 測定的實習

測定には實地の測定と圖上の測定との二方面があるが距離、面積、高さ、時間等を數量的に實習をするのである。

○距離の測定

距離の測定には直線と曲線との二通りの測定がある。

小學校の測定は縮尺を利用し、又は機械を用ひず實地を測定した概數で充分である。

鐵道及び航路は兒童の測定と當路者の測定と對照せしむればよいのである。

河川の測定は本流の長さを測定すればよいのだが本支流の明かでないのがあるから大体でよいと思ふ。

○面積の測定

幾何學を利用して行ふのと、目方による測定があるが小學校兒童には幾何を應用して

はからしめるとよい。縮尺を利用し長さを測ると面積はすぐ測定出來る。

○高低の測定

土地の高低は小學校では實地についてはむづかしいと思はれるが氣壓計や測高計等があるところは利用してよいと思ふ。圖上の測定は標高圖を利用すればよい。海の深さも標深圖を利用すればよいのである。

○時間の測定

實地に於ては時計により、交通機關を利用して測定し圖上に於ては經線によるがよい

○氣溫の測定

實地では寒暖計を利用し、圖上に於ては等溫線を利用すればよいのである。

○雨量の測定

實地では雨量計を利用し、圖上では雨量圖を利用すればよろしい。

要するに測定的實習は觀察を深刻ならしめて確實なる知識を習得せしめるのに効あるものである。

(5) 圖表的實習

圖表の種類を形式上より分けると次の四種になる。

一、線形による圖表

これは人口とか產額の增減、貿易額等の動的もの及び面積、長さ等の如き靜的のものにも利用される。更にこれを分類して見るならば

○直線法

縱線か橫線を用ひて數量をあらはす方法で貿易額の累年的傾向を知つたり、工業原料品と製造品との對照をしたり、列國々勢を知つたりするやうな時に利用される。

○曲線法

氣溫の高低、雨量の多少、日中の溫度等をあらはすに適してゐる。方眼紙に各月の平均氣溫を示し之を連結すれば最高最低及び其の傾向を知ることが出來る。

二、面積法

これには種々あるが其の中最も便利なのは圓形の面積法、半圓形面積法、方形面積法等がある。

○圓形面積法

全圓を全量とし之を部分に分けて其の内容を知ることが出來るので非常に都合がよいのである。

○半圓面積法

圓の代りに半圓になつたゞけの差である。

○方形面積法

方形又は長方形の面積の大小を以つて數量の大小を現す方法で人口、面積、産額等教科書記入の分は多くこれによるのである。

三、地圖法

其の土地の事實をあらはすのによく人口密度人種の別雨量の多少、産額等分布を示す。その方法は色別、線の組合、點式の三種あつて色別は雨量分布人種の分布、土性圖等に用ひられ色の濃淡で其の地域の量をあらはす。

線の組合は同一地帶をあらはし、點式はドットマップで點の大小多少によつてその位置と數量とを表すものである。地圖法は特別グラフである。

四、象形法

實物の形の大小によつて概數を示す法で例へば米は俵の大小によつて、直觀的に比較して概數を會得するのである。この方法は通俗的に普及されてゐるものである。

四、實生活の指導

イ、指導の原理

地理教育は兒童生活を本位とせねばならない。人類は「よりよき生活を希望してゐる」。しかしそれは最もむつかしいことである。吾々人間生活に對してすべてのものは、滿足を與へる狀態にはなつてゐない。絶えずよりよき生活への爲に苦悶してゐる。物と人、人と人との間にこの狀態がつゞく。物對人の場合には何時も征服の感に立つ。人對人の場合にはそこに優越性が働いて競爭が起る。

その間に洗練を經て調和を求めやうとする。その近づきは始めは鬪爭を目的とした。過度期にある社會には無理からぬことである。それ等は總て創造の過程であり、發見である。地理教育の最終の目的はこの尊い發見と創造のために獻身的であり奉仕的である人を作るにある。

兒童生活を本位とせる地理教育でなければならぬことは異論はない。しかし少くとも研

究の對象が活きてゐる社會である限り自然に兒童も大人の仕事の一部に交渉をもつて來る。それは即ち對外的關係や國民全部に關する問題の場合である。則ち民族問題や國際問題に對しては正し。觀念を持たせること等は直接に兒童生活に關係はなくとも國民の教養として是非教育の必要がある。

殊に內國的に對外的に經濟問題は重要になつてゐる。

大人の時代にやることに考へられてゐる經濟教育は實は子供の時代に完成すべきものではないだらうか。

殊に小學校教育を完成せんとする高學年に於ては重視すべき問題であると思ふ。

ロ、指導の要項

一、人口問題

人口問題とは絕對的過剩人口を前提とせる對策論である。或る人は人口過剩を領土の總面積から、或人は人口と耕地面積から、或人は人口と資本から、或人は生產と人口との割合から說かふとする。何れにしても人口が多くなることは決して安住を許さないことである。人間の總ては食ふが總ての手は働かない。働かざる階級は自然に消滅しても、働けざる階級は何時の時代にもつく。

更に働き得ざる階級の益々增加してゐる現狀を見る時に考へるべき幾多の問題が積つて來る。働けざる階級に子供と老人がある。日本の一戶あたり家族數は五人五分强であつて其の中二人が生產者で他の三人が食はせられる者であり、その外働き得る人で病床に呻吟してゐる人も決して少くない。働けざる者が一面に社會を構成してゐることを忘れてはならない。働き得ざる階級の多きことよ。

失業者の多きことは餘りに報道されてゐる。最近大阪の天王寺公園の浮浪者を狩り集めたるに千二百名の群に接したと報道してゐる。何故に働き得る人々の就職が之程困難となつて來たのであるか。

働くべき手を持つてゐる人が働かない。働かざる階級が多くなることは社會を一層不健全にする。しかしこれは減少しつゝある。

これ等の事實は兒童の頭上に降りかゝつて來る問題であるこれ等を如何に指導すべきか項を追つて述べる。

○移民政策

移民政策は決して弱肉强食主義から發してゐるのではない。近代に於ては國際信義の上から「未だ目立し得ざる人民の居住する者に對しては該人民の福祉及び發達を計るは文明の神聖なる使命」とされてゐる。

世界の移民地として南米、南洋、シベリヤ、阿弗利加等を世界の人々は考へてゐる。吾々は直面せる問題を充分考究して指導に當りたい。それならば如何なる土地が殖民地として良好であるか。

イ、土地廣く地味肥沃であること

ロ、氣候風土が我が國に類似してゐること

ハ、我が國との距離の近いこと

ニ、人口の密度が小で競爭者の少いこと

ホ、國際關係密接で人類的偏見なく歡迎してくれる所

我等は移民を受ける國の教育と移民を送る國の教育の萬全を期して人類の福祉を希望する。

○內地移民策

內地移民策とは內地に於ける比較的人口密度の少い地方に移民せしめて合理的の產業を盛ならしめやうとするのであるが早晚實現されることであるから現在は先づ海外の殖民政策に留意すべきであらう。

○生活改善策

イ、時間の節約をはかること

ロ、勞力の節約をはかり能率高き生活をすること

ハ、經費の節約をはかること

要するに澤山改善事項を羅列して何にもならぬ。結局は眞面目な人間を一人でも多くすることである。現代の最も大きい欠陷をあげるならば不眞目な人生觀を持つた人が社會の多數を占めてゐることである。お互ひの人生觀を根本から立て直すことに生活改善の基礎を置かねばならない。

○產業立國策

產業立國はすべての人が心よく働き得る狀態に置くことが根本である。心よく働くことは神に對する奉仕である。その奉仕觀念の乏しくなつてゐることは現代程甚だしい

ものはない。

イ、農業政策　世界に誇る農業國を建設する爲に疲弊せる農村を打開するために農民の自覺を促すと共に指導とを祈るのである。

ロ、商工業政策　吾々の求める工業化は加工でなしに加血であり、加魂であらねばならぬ工業の勃興を祈願する。殊に日本の如き小資本國、小原料國に於ては、大和民族の血の通つた工業品でなければならぬ。此の意味に於ての工業化を提唱する。それが將來行くべき工業立國策の根本精神ではないかと思ふ。

商業立國策の根本思想は商業の意味を正しく理解せしめ、世界全体の需要、供給狀態を知らしめると共に生産と消費に對する正しい理解を授けることである。

尙又輸出品の外國に於ける評價を知らしめること。

輸出品の製造法や有樣を知らしめること。産物の輕重的取扱をすること。商業販賣等に於ける冗費をはぶくことなど充分指導すべきである。

二、經濟地理の指導

經濟地理の重要なことは今まで多く述べて來たから略す。

○日常品の鑑識。

こんなことは專門家の知識のやうであるが日常生活には極めて大切なことである。地理の實習として是非デパートに行つて鑑識させておく必要がある。殊に國産品愛用の叫ばれてゐる今日舶來品に對して過信するが如きは甚だしき誤である。

○品物の製造法や有樣を知らせねばならない。

輸出品は特別なもので製造してゐるので自然國内品より高價にならざるを得ない。そこで吾等は國内で使用する如きものが輸出されるやうに國内品を立派にせねばならぬ

○重要品は特に重要視する

需要高の多いものは特に徹底せしめて置くべきである。

○世界の需要と供給關係を知らしめる

世界の市場が如何なるものを要求し、其の供給狀態はどうであるかを理解せしめねばならぬ。

五、學習法の建設

イ、指導の原理

地理科に於ける目的は前から述べて來たのであるが教材は明かに教科書に示されてゐる地理のやうな學科は唯教材の研究さへしておけば方法はどうでもよいと云ふ人があるが大きな誤である。地理の如く直觀に基いて漸次に想像類推して行くものはどうしても之が學習指導の方法を研究せねばならぬ。

要するに地理教育の目的を熟讀吟味して、教材の研究を充分にしながら、現前の兒童の實際に即して教育するのが最上の指導法と言へるであらう。

而らば如何なる學習法を取らねばならぬか。

(1) 兒童發達に即せる學習法

これまで多くの場合其の學年兒童の心理發達を顧慮することもなく同じ教授法、學習法が行はれてゐた樣である。尋常五年の初期の地理學習法と尋常六年の初期の地理學習法とはそこに發展進歩があらねばならない。そこで之から其の系統案を示すならば尋五の初期に於ける學習法

A 豫習法

一、學習前に於ける豫習法

(1) 地圖、教科書を對照とせる豫習

イ、教科書を充分讀んで地圖と對照せしめる

ロ、地圖を透寫せしめて來させる

ハ、質問の点をノートさせて來る

(2) 實物標本類を對照とせる豫習

イ、實物標本の蒐集にあたらさせる

ロ、蒐集されたものについて父兄母姉について聞かせる

ハ、學校に持つて來て教室内に陳列させる

ニ、相互に研究させ疑問を掲示板にかゝしめる

ホ、教師も共同して研究準備する

二、學習時間中に於ける豫習法

(1) 既習事項の豫備的復習

イ、其の日に關係深い舊觀念の喚起整理

(2) 家庭豫習を命じたる場合の處置

イ、豫習をして來たか否かの点檢
ロ、豫習したものを更に整理
ハ、其の間に標本を見させるもよからう

◎指導の要領

イ、直觀を尊重すること
ロ、豫習法及び其の事項を明示する
ハ、標本觀察の要点を明瞭にする
ニ、豫習して來たことを再視整理させる間に劣等兒を指導す
ホ、ノートの指導法にも留意す
ヘ、或程度まで競爭心を利用する

B 學習法

一、目的を認識せしめる
二、共同學習法に入る
イ、兒童は教科書及び地圖を見て發展の位置に立つ
ロ、教師は問答しつゝ要項を板書に整理的に表記し、略圖を描きつゝ説明する
ハ、要項は完全なるものゝみとせず兒童の自覺の餘地あらしめること
ニ、適當な所で口述復演をなした後、筆述復演をせしむ
ホ、稍進んだ後最後にまとめて筆述復演を行ふ

◎指導要領

イ、各要素間の連絡に注意せしむ
ロ、教科書と地圖と連絡せしむ
ハ、要項の表記は教科書を基本とする
ニ、此の間には直觀物方便物を使用。…模型をも使用す
ホ、教科書の精讀をなさしめる
ヘ、個人指導を充分すること
ト、色チョークを使用して描圖の模範を示す
チ、地圖の見方を充分指導する

C 復習法

一、言語による復習
イ、學習した順序に板書を見ながら復演せしむ
ロ、學習した順序に空に復演せしめる
ハ、個々のものについて發問して答へしめる
○、相互的質問や試驗的質問を行ふ
二、筆記による復習
イ、描圖の練習を行ふ
ロ、教師の描ける小黒板に記入せしめる
ハ、補充的完成的に筆記せしめる
ニ、問題について筆答せしめる
ホ、模型の製作によつて復習せしむ
ヘ、標本實物を精細に觀察せしめる
◎指導要領
イ、多樣なる練習法を取らせ時間を空費せぬ樣にする

ロ、筆述の復習は必ず行ふこと
ハ、個人指導につとめる
ニ、練習時間を充分に取つておくこと
是は尋五初期のもので日本の學習位はこの方法から漸次地理的に進んだ方がよいと思ふ。しかし低學年中學年に於て充分此の期の指導が徹底されてゐる者は次の指導から進んでよいと思ふ。要は兒童の程度に即する事だ。
尋五の第二期に於ける指導法。
A　豫習法
一、學習前に於ける豫習法
(1)　地圖教科書を對照とせる豫習
イ、教科書を充分よんで地圖と引合せる
ロ、學習要項を發見してノートに記載する
ハ、地圖を透寫せしめて來る
ニ、教師用の參考書も利用させる

(2) 實物標本を對照とせる豫習

イ、數日前から材料(實物標本)の名稱と觀察の要点を示し蒐集につとめる

ロ、學校に持つて來て材料陳列所に陳列せしむ

ハ、蒐集された材料を相互に研究をなす

ニ、教師も出來る限り材料の蒐集につとめる

二、學習時間中に於ける豫習法

(1) 既習事項の豫備的復習

イ、關係材料の舊觀念の喚起を促す

(2) 家庭豫習を命じた場合の處置

イ、豫習をして來たか否かの点檢をなす

ロ、豫習して來たことの復習整理をせしむ

ハ、豫習して來た事を口又は手によつて發表せしむ

ニ、教師は机間巡視して指導するもよい

ホ、其の間に標本實物を見せるもよからう

◎指導要領

(1) 教師の準備

イ、其の頃必要なる大地圖を教室に掲ぐ

ロ、掲示板を用意し質疑應答の便にあてる

ハ、學習材料の陳列所を作り用意する

ニ、參考書類を整理し使用に便ならしむ

(2) 豫習法及び其の事項を明示す

(3) 標本觀察の要点を明示す

(4) 兒童の疑問に適切なる解答をなす

(5) 豫習の結果を点檢し成功の快感を與へる

B 學習法

一、豫習事項の反省をなさしめる

二、學習の目的を確認せしめる

三、共同學習に入る

イ、學習の要項を問答し學習の輪廓を示す
ロ、學習の輪廓は既に確定されてゐる者
○學習要項を板上にかゝしめる
ハ、未だ明瞭でないものは更に目的に向つて
○教科書、地圖によつて描圖や表記法を行はしむ
○描圖や表記の終つた兒童は地圖教科書によつて話し方の練習をさせる
ニ、板書の要項其他に就いて質疑應答を行ふ
ホ、之を基礎として教師補説をなす
ヘ、其の間に於て實物標本、模型等を使用する

◎指導要領

1、各要素間に留意せしめる
2、地圖と教科書と連絡せしめる
3、要項は教科書を基本とする
4、全体の研究を遂げさせて置く

5、補説は必ず具体的であること
6、地理眼の開發をはかるやうにする
7、個人指導につとめる
8、描圖の模範を示すやうにする

C　復習法

一、言語による復習
イ、學習した順序に板書を見ながら復演せしむ
ロ、學習した順序に空に復演せしむ
ハ、學習した順序を異らしめて一分類的に、旅行体的に
二、筆による練習
イ、描圖練習をなさしむ
ロ、塗板に描圖して説明する
ハ、完成的に要項を筆記せしむ
ニ、表記の体裁を異ならしめて書かしめる

ホ、表記せしことを空にかゝしめる
ヘ、問題によつて筆答せしめる
三、模型の製作により復習
四、統計等製作して復習せしむ
◎指導要領
1、多種多樣なる練習法をとらせる
2、筆による練習を重んずる
3、作業も重んずる
4、練習時間を多くする
5、個人的自由練習を重んずる
6、個人指導に留意する

尋五の第三期に於ける指導法

A　豫習法

一、學習前に於ける豫習法

(1)　地圖教科書を對照とせる豫習

イ、地圖と教科書を對照させる
ロ、學習要項を發見しノートに記載する
ハ、要項に就いて深究し作業にもあらはす
ニ、學習の中心問題をとらへる
ホ、中心問題について深究せしめる
ヘ、教師用參考書も使用せしめる
ト、中心問題を發表せしめる

(2)　實物標本を對照とせる豫習

イ、折々に必要なる標本類を蒐集せしめる
ロ、蒐集された物は學校に陳列する
ハ、教師も出來る丈直觀物を用意する
ニ、蒐集されたものについて研究をして置く

二、學習時間中に於ける豫習

(1) 既習事項の豫備的復習をなす
イ、其に關係深い舊觀念の喚起を促す
(2) 學級中心問題を決定する
イ、國勢を理解するための重要問題
ロ、地人相關の理の明かなる問題
ニ、其の地方の個性をあらはす問題
ホ、鄉土に關係ある問題
ヘ、地理的理法のあらはれた問題等から決定
(3) 地圖、實物標本、模型教科書等を對照として中心問題への深刻なる研究をなさしめる

◎指導要領

(1) 教師の準備すべき物
イ、大地圖を教室にかゝげる
ロ、掲示板をかけ問題發表に使用せしめる

ハ、材料陳列所を設けて陳列せしむ
ニ、參考書類を整理し使用法を指導す
ホ、研究資料を印刷して渡すこと
(2) 自己の問題は自己で解決するやうにする
(3) 作業を重視する
(4) 問題構成の反省をする
(5) ノートの指導をする
イ、文章法
ロ、表記法
ハ、地圖及圖表法良好

B 學習法

(1) 中心問題を對照とする獨自研究をなす
(2) 中心問題に對して相互學習に入る
イ、板書によつて發表する

ロ、地圖によつて發表する
ハ、模型によつて發表する
ニ、圖表によつて發表もする

(3) 其の間に於て教師の補説によつて具体化をはかる

◎指導要領

1、各要素間に注意させる。即ち有機的に見させる。
2、地圖と教科書と連絡せしめる
3、問題と地圖、問題と教科書と連絡せしめる
4、地方全体の研究の上に進めて行く
5、描圖の指導をする
6、個人指導に留意する
7、發表の態度を訓練する

C 復習法

一、言葉による復習

イ、學習した順序に復習せしめる
ロ、學習した順序を異ならしめて一分類的に、旅行的に
ハ、地圖を指しつゝ復習せしめる
ニ、地理學習の會をなすこともある

二、筆による復習

イ、地圖を書きながら復習する
ロ、表記の体裁を異にして書かしめる
ハ、問題について筆答せしめる

三、實習による復習

イ、模型を製作して學習事項をあらはす
ロ、旅行案内による復習をせしむる
ハ、其他の實習による復習

◎指導要領

1、多種多樣なる練習をなさしめる

2、練習時間を多くする
3、個人的自由練習を重んずる
4、個人指導に留意する

(2) 材料の特質に即せる學習法

今まで兒童の發達程度に即する地理學習法を述べて來たのであるが更に材料の研究が行はれて題材觀が立ち材料の特殊性に應じた方法とが融合されて適切な指導が出來るのである。それならば材料に即して如何なる學習法をとらせたらよいか述べる。各材料に對する學習法の着眼をあげて論をすゝめることにする。

一、位置の學習

○日本地理の場合

(1) 自然的位置

イ、日本全体から見るとどちらにあるか
ロ、郷土から見るとどちらにあるか
ハ、郷土からどれ位はなれてゐるか

ニ、四周はどんな所であるか
ホ、緯度の上からも考察させることがある

(2) 人文的位置

イ、四周は如何なる產業文化地帶か

○世界地理の場合

(1) 自然的位置

イ、日本全体から見るとどちらにあるか
ロ、郷土から見るとどちらにあるか
ハ、郷土からどれ位はなれてゐるか
ニ、世界全体から見て四周はどんな所か
ホ、經緯度から見るとどんな位置にあるか

(2) 人文的位置

イ、四周はどんな文化地帶であるか

二、地勢の學習

(1) 土地の高低、傾斜、河川、平野、湖沼の高低、海岸の有樣はどうあるか
(2) 山脈、河川、平野、海岸の特色はどうあるか
(3) 全圖、部分圖、斷面圖等をかいて特色を見よ
(4) 地勢が氣候、產業、交通、風景、風俗、政治にどんな關係があるか

三、山脈の學習

(1) 高さはどれ位か
(2) 東西に走るか傾きはどうか
(3) どんな分水界をなしてゐるか
(4) 連續山脈か、どうか
(5) 如何なる植物があるか
(6) 山脈の成因はどうか
(7) 其の山脈の影響は

氣候に、產業に、交通に、人情に、風俗にどうか

四、河川の學習

(1) 水量は定つてゐるか
(2) 水の流れは早いかどうか
(3) どちらに流れるか。中央を流れるか
(4) 流域は如何なる平地か、又產業地か、山地か
(5) 如何なる水產物があるか
(6) 河川の影響は

灌漑に、運輸に、發電に、水產業に、風景にどうか

五、平野の學習

(1) 其の平野は廣いか、狹いか、細長いか
(2) 地味はどうか、地質はどうか
(3) 小さな丘があつたり低い所があつたりするか
(4) 如何なる天產物があり、又如何なる產業が盛んか
(5) 如何なる都會があり、鐵道、河川、運河等の交通は發達してゐるか

六、湖沼の學習

(1) 湖沼はどこにあるか、その深さはどれ位か
(2) 廣さはどれ位か
(3) 水質はどうか、漁類は如何なるものか
(4) 如何に影響があるか

交通に、水力に、水産物に、人生に、氣候に

七、海岸の學習

(1) 海岸線は長いか短いか、屈曲はどうか
(2) 海岸の地形はどうか、急に深いか
(3) 海底の有樣は
(4) 後背地はどうか
(5) 如何なる影響があるか

交通に、水産業に、風景に、氣候に、國防上に

八、氣候の學習

(1) 緯度はどうか、海流はどうか、地勢はどうか、風向はどうか、海に近いか

(2) 雨量はどうか、等溫線、海流圖を見よ
(3) どの位暑いか、寒いか
(4) 鄕土とはどうあるか
(5) 如何なる影響があるか

産業に、交通に、住民の生活に、文化の發達に、日常生活に

九、交通の學習

(1) 我國各地との連絡はどうか、外國とは
(2) 其の交通機關が何故作られたか
(3) 其の交通路に連結せらるゝ港名

産物の集散地、交通の中心地、二点間の距離、日數

(4) 海陸の連絡はどうか
(5) 其の地方に交通の特色は
(6) 交通圖等をかいて見よ
(7) 旅行による研究をなしてごらん

一〇、産業の學習

(1) 産業地、産地はどこか、

(2) 其の産業は盛んであるか、産額はどれ位か

(3) 産業の盛んなわけ、産物の出るわけ

(4) どこに集めてどこにどれ位賣り出すか

(5) これによつて國民はどれ位生活しよいか

一一、都邑の學習

(1) 其の都邑の位置はどうか

(2) 産業産物はどんなものがあるか

(3) 如何なる風に發達したか

(4) 何故こんな都會が出來たか、又特色は

(5) 今後此の都邑はどうなるか

此の學習法の着眼点は印刷して兒童に與へ學習の方向を此の方面に進めて行くのである

次に兒童の發達程度に即せる學習法と材料の特質に即せる學習法との融合せるものゝ一

般過程を述べる。

勿論尋五の初期より述べて行くべきであるが此處には尋五の第三期より述べることにするから初期、二期の部面は指導者自身に適當に御採擇御指導下されんことを希望する次第である。

(一)地勢中心の學習

A 豫 習

一、學習前に於ける豫習

(1) 地圖と教科書を對照とせる豫習

イ、地圖と教科書とを充分對照せしめて研究する

ロ、學習要項を發見しノートする

ハ、要項に對し左の事項の研究する

○土地の形狀

○山脈の方向、高さ

○河川と平野との關係

○海岸の有様

ニ、學習要項中の中心問題を決定する

○地勢と氣候との關係

○地勢と產業との關係

○地勢と交通との關係

○地勢と都邑との關係

○其他の關係等から

ホ、中心問題について深刻の研究をする

ヘ、中心問題を發表せしめる

(2) 實物標本を對照とせる豫習

イ、登山記念の葉書其他を蒐集させる

ロ、蒐集された繪葉書等を陳列せしめる

ハ、教師も出來るだけ地形圖等の蒐集につとめる

ニ、模型について深刻の研究をする

ホ、自分でも作らせる

ヘ、陳列された材料について研究する

二、學習時間中に於ける豫習

(1) 既習事項の豫備的復習をする

イ、山、川其他關係材料に就いて問答す

(2) 學級中心問題の撰定をする

イ、地方色のあらはれた地勢の問題

ロ、地人相關の理の明かな問題

ハ、鄉土に關係のある問題

ニ、地理的理法の明かな問題

(3) 問題研究の順序決定

◎指導要領

(1) 教師の準備すべき物

イ、大地圖を教室にかゝげる

ロ、掲示板をかゝげ問題發表に便ならしむ
ハ、材料陳列所に
模型、繪葉書、其他直觀物
ニ、參考書類の陳列をする
ホ、研究資料の印刷
(2) 自己問題の解決にあたらせる
(3) 模型其他實習をさせる
(4) 問題構成の反省をさせる
(5) 描圖の指導
B 學習法
(1) 中心問題を對照とする獨自の研究
(2) 相互研究に入る
イ、板書によりて發表する
ロ、地圖によつて發表する

ハ、模型によつて發表する
ニ、圖表によつて發表する
(3) 其の間にあつて教師は具体的に補説する
◎指導の要領
1 有機的に見させる
2 地圖と本と連絡せしめる
3 問題と地圖、本と連絡せしめる
4 地方全体の研究の上に進めて行く
5 描圖の指導をする
6 個人指導に留意する
7 發表の慾度を訓練する
C 復習法
一、言語による復習
イ、學習した順序に復習せしむ

ロ、學習した順を異ならしめて一分類的に
ハ、地圖を指しつゝ復習せしめる
ニ、模型によつて復習せしめる
ホ、比較學習による學習の會をすることもある

二、筆による復習
イ、地圖を書きながら復習する
ロ、表記の体裁を異ならしめてかゝしめる
ハ、問題について筆答せしめて見る

三、實習による復習
イ、模型を製作して復習させる
ロ、其他の實習による復習をせしめる

◎指導要領
1、多種多樣なる練習をせしむ
2、練習時間を多くす

3、個人的自由練習を重んず
4、個人指導に留意す

(二)氣候中心の學習

A 豫習

一、學習前に於ける豫習

(1) 地圖と教科書と對照とせる豫習
イ、地圖と教科書と充分對照せしめて研究する
ロ、學習要項を決定しノートする
ハ、要項に對し左の事項を研究する
○鄕土の氣候との比較
○緯度の高低と氣溫との關係
○潮流と氣溫との關係
○地勢と氣候との關係

二、學習要項中の中心問題を決定する

○氣候と產業との關係
○氣候と交通との關係
○氣候と人の氣質との關係
○氣候と文化との關係
○其他の關係等から
ホ、中心問題について深刻なる研究をする
ヘ、中心問題を發表せしむ

(2) 實物標本を對照とせる豫習
イ、衣服類其他氣候に關係ある材料の蒐集
ロ、材料が蒐集されたら陳列する
ハ、教師も出來るだけ材料を蒐集する
ニ、氣溫圖、雨量圖、海流圖等かゝしめる
ホ、陳列された材料について研究する

二、學習時間中に於ける豫習

(1) 既習事項の豫備的復習
イ、鄕土の氣溫、雨量の質問をなす
ロ、氣候に關する其の他の既知事項の質問をなす

(2) 學級中心問題の撰定をする
イ、地方色のあらはれた氣候の問題
ロ、地人相關の理の明かな問題
ハ、地理的理法の明かな問題などから
ニ、問題研究の順序を決定する

◎指導要領

(1) 教師の準備すべき物
イ、關係地圖を教室にかゝげる
ロ、氣溫、海流、雨量分布圖を用意する
ハ、材料陳列所に
繪葉書、模型、其他材料

ニ、參考書類の陳列をする
ホ、研究資料の印刷

(2) 自己の問題は自分で解決させる
(3) 實習を重んずる
(4) 問題構成の反省をする
(5) 讀圖の指導をする。—讀圖の指導の項參照
(6) 描圖の指導する。—描圖の指導の項參照

B 學習法

(1) 中心問題を對照とする獨自の研究
(2) 相互研究に入る
イ、板書によつて發表する
ロ、地圖によつて發表する—掛地圖
ハ、模型によつて發表する
ニ、圖表によつて發表する—等溫、雨量

(3) 其の間にあつて教師は具体的に補説する

◎指導の要領

1、有機的に考察せしめる
2、地圖と本と連絡しめる
3、問題と地圖、本と連絡せしめる
4、地方全体の研究の上に進めて行く
5、描圖の指導をする
6、個人指導に留意する
7、發表の態度を訓練する

C 復習法

一、言語による復習
イ、學習した順序に復習する
ロ、等溫線、雨量分布圖等を指しつゝ復習する
ハ、口問口答によつて復習する

二、筆による復習

イ、地圖をかきながら復習する

ロ、筆問筆答をさせる

三、實習による復習

◎指導要領

1、多種多樣なる練習をなさしめる

2、練習時間を多くする

3、個人的自由練習を重んずる

4、個人指導に留意する

(三)産業中心の學習

A. 豫習

一、學習前に於ける豫習

(1) 地圖、教科書を對照とせる豫習

イ、地圖と教科書と充分對照せしめて研究する

ロ、學習要項を決定しノートする

ハ、要項に對し特に左の事項深究する

○主産業と産物

○産地と産額

○主要産物の生産過程と移動

○産業と生活狀態

ニ、學習要項中の中心問題を決定する

○産業と地勢氣候交通との關係

○産業と都邑發達人情との關係

○産業と其地方の生活等から

ホ、中心問題への深刻なる研究をする

ヘ、中心問題を發表せしめる

(2) 實習標本を對照とせる豫習

イ、産物の標本實物の蒐集にあたらせる

ロ、教師は出來るだけ直觀物を集める
ハ、蒐集されたものは陳列する
ニ、模型實物等利用して作業させる—實習の部參照
ホ、産業圖等の描圖をなさしめる—實習の部參照
ヘ、陳列された材料について研究させる

二、學習時間に於ける豫習

(1) 既習事項の豫備的復習
イ、他教科等で學習せるものに就いて

(2) 學級問題を撰定する
イ、其地方獨特の産業
ロ、日本經濟上重要なる産業
ハ、都邑發達上重要なる産業
ニ、産業と地勢氣候交通との關係
ホ、日常生活に重要なる産業等から

ヘ、問題解決の順序を決定する

◎指導要領

1、教師の準備すべきもの
イ、關係地圖をかゝげる
ロ、標本類の蒐集につとめて成るべく多くする
ハ、陳列所に
繪葉書、實物、標本其他材料を集める
ニ、參考書類の陳列をする
ホ、研究資料を印刷する

2、自己の問題は自己で解決せしめる

3、實習を重んずる—實習の部參照

4、問題構成の反省をする

B 學習法

(1) 中心問題を對照とする獨自の發展研究

(2) 相互研究に入る

イ、地圖によつて發表する—産業分布圖等實習の部參照

ロ、模型によつて發表する

ハ、圖表によつて發表する—實習の部參照

ニ、板書によつて發表する

(3)、其の間にあつて教師は具体的に補説する

◎指導の要領

1、人力の偉大さを感得せしめる

2、經濟生活の指導に留意する

3、日本産業界より見て指導する

C 復習法

一、言語による復習

イ、學習した順序に復習する

ロ、地圖を指しつゝ復習する

ハ、學習の順序を異ならしめて分類的に、又は旅行的に

ニ、口問口答による復習をさせる

二、筆による復習

イ、地圖をかきながら復習

ロ、筆問筆答をさせる

三、實習による復習—實習の部參照

◎指導要領

1、多種多樣なる練習をなさしむ

2、産業教材は特に練習を多くす

3、個人の日常生活の指導まで及ぼす

4、實習による復習は特に重んずる

5、教科書の精讀をせしむ

6、自己の研究の反省をする樣にする

7、不審点はないやうにする

(四)交通中心の學習

A 豫習

一、學習前に於ける豫習

(1) 地圖と教科書を對照とせる豫習

イ、地圖と教科書と充分對照せしめて研究する

ロ、學習要項を決定しノートする

ハ、學習要項に對し左の事項をしらべる

○主要鐵道線の起、終点、時間、任務、賃錢、

○海底電線の有樣

○無線電信の有樣

○航空路の有樣

ニ、學習要項中の中心問題を決定する

○交通と地勢、氣候、產業との關係

○交通と都邑及び文化との關係

○交通と國防との關係等から

ホ、中心問題について深刻なる研究をする

ヘ、中心問題を發表せしむ

(2) 實物標本等を對照とせる豫習

イ、旅行案內、繪葉書、交通地圖等の蒐集

ロ、蒐集されたら陳列する

ハ、教師も出來るだけ蒐集する

ニ、交通圖等を描かしめる

ホ、蒐集されたものについて研究する

ヘ、旅行案內等を使用する

二、學習時間中に於ける豫習

(1) 既習事項の豫備的復習

イ、鄉土より其地まで旅行したものゝ反省

ロ、知人の旅行談等を聞いた感想談

(2) 學級中心問題の撰定をする

イ、地方色のあらはれた交通の問題

ロ、交通と地勢氣候産業との關係の問題

ハ、交通と都邑、文化との關係の問題

ニ、其他の問題から

ホ、問題解決の順序を決定する

◎指導要領

1、教師の準備すべき物

イ、交通關係地圖を教室にかゝげる

ロ、等刻圖、交通地圖、産業圖等用意す

ハ、模型、鋸屑模型等は用意されてある

ニ、陳列所に

繪葉書、旅行案内、運行グラフ等

ホ、參考書類の陳列をする

ヘ、研究資料の印刷物

2、自己問題解決にあたらせる

3、實習を重んずる

4、問題構成の反省をなさしめる

B 學習法

(1) 中心問題を對照とする獨自の研究

(2) 相互研究に入る

イ、板書による發表

ロ、地圖による發表

ハ、模型による發表

ニ、圖表による發表

(3) 其の間にあつて教師具体的に補説す

◎指導の要項

1、有機的に學習させる

2、地圖を中心にする
3、旅行案内の使用になれしめる

C 復習法

一、筆による復習
イ、交通圖をかかしめる
ロ、筆問筆答をさせる

二、言語による復習
イ、學習した順序に復習させる
ロ、旅行体的に復習せしめる
ハ、口問口答せしめる

三、實習による復習
イ、模型製作による復習
ロ、旅行豫定製作による復習
ハ、其他の實習による復習

◎指導要領
1、多樣なる練習をなさしめる
2、教科書の精讀をなさしめる
3、個人指導に留意す
4、交通の連絡系統に留意せしめる

(五)都邑中心の學習

A 豫習

一、學習前に於ける豫習

(1) 地圖と教科書を對照とせる豫習
イ、地圖と教科書と充分對照せしめて研究する
ロ、學習要項の決定をしノートする
ハ、學習要項に對し左の事項を研究する
〇都邑の位置、大きさ、人口
〇都邑の發達原因

○都邑の特色

ニ、學習要項中の中心問題を決定する

○都邑と氣候、地勢、產業、交通との關係

○都邑と各要素の關係

○都邑の日本的地位や世界的地位などから

ホ、中心問題に對して深刻なる研究をする

ヘ、中心問題を發表せしむ

(2) 實物標本等を對照とせる豫習

イ、都邑に關係ある材料を蒐集する

ロ、蒐集されたら陳列する

ハ、教師も出來るだけ蒐集する

ニ、都邑分布圖等描かしむる

二、學習時間中に於ける豫習

(1) 既習事項の豫備的復習

イ、地勢、產業、交通等の復習

ロ、既知觀念の喚起につとめる

(2) 學級中心問題の撰定をする

イ、其の地方獨特の都邑の現況

ロ、都邑の發達の原因

ハ、都邑の各要素間の關係

ニ、都邑の日本的世界的地位等から

ホ、問題解決の順序を決定する

◎指導要領

1、教師の準備すべきもの

イ、關係地圖をかゝげる

ロ、今までに蒐集されたものを陳列所に陳列する

ハ、繪葉書類は分類して示す

ニ、參考書類を整理する

ホ、研究資料を印刷

2、自問自決の態度を養成する

3、實習を重んずる

4、問題構成の反省をせしめる

B 學習法

(1) 中心問題を對照とする獨自研究

(2) 相互學習に入る

イ、地圖によつて發表する

ロ、模型によつて發表する

ハ、圖表によつて發表する

ニ、板書によつて發表する

(3) 其の間に教師は具体的に補説する

◎指導の要領

1、都邑學習は特に全要素の連絡を忘れぬ

2、人力の偉大さを感銘する樣にする

3、全部の實習が都邑に統一される樣にする

4、鄕土との關係を重視する

5、日常生活の指導に留意する

C 復習法

一、言語による復習

イ、學習した順序に復習させる

ロ、旅行体的に復習させる

ハ、口問口答せしめる

二、筆による復習

イ、都邑分布圖などかゝしめながら特色を記入させる

ロ、筆問筆答させる

三、實習による復習—實習の部參照

◎指導要領

1、多種多樣なる練習をなさしめる
2、教科書の精讀をなさしめる
3、個人指導に留意す
4、全要素の統一を都邑にてはかること

(六)地方総括の學習

地理科の內容は實に廣汎であるため兒童の頭は混亂する嫌ひがある。そこで其の地方の學習が終つた時には之を總括し、其の地方の特相を確實に把捉せしめる事が必要である。殊に有機的に學習するので內容が相錯綜したりしてしまふことがある。この點からも吾々は必ず一地方の終には總括的指導をせねばならない。

勿論其の指導法は材料の特質、兒童の發達程度、教師の教材觀によつて異なるべきも今其の一般的指導法を述べて見たいと思ふ。

(1) 比較による総括法

A 豫習法

一、相異なる二地域の決定をする

二、兩區域の自然と人文の相異を研究せしめる
三、ノートさせる
○河川、河川の長短
○平野の分布
○氣溫の高低、雨量の多寡
○產業の種類と發達の程度
○交通線の發達
○都邑の分布狀態
○現象の原因考察
四、比較の明瞭なるものゝ實習をする

◎指導要領

イ、全員を二分して特別責任の地域を示す
ロ、兒童本位にやらしめる
ハ、作業を重視する

B　學　習

一、相互學習に入る

イ、地圖によつて發表する

ロ、模型によつて發表する

ハ、圖表によつて發表する

ニ、板書によつて發表する

ホ、責任の地域は特に發表する

ヘ、教師は其の間誤のあつた時訂正する

C　復　習

一、自己の研究の批正をする

二、地方の特色を把捉したか地圖と對照する

(2)　交通系による総括

これは交通を交通系としての生命を躍動せしめ之を中心として都邑をたどり旅行的既習事項を復習するのである。又旅行案内を所持して旅行日程を作らしめて総括せ

しめるのもよい。

(3)　地理區による総括

從來の人爲的の單元によつて學習して來たものを地理區によつて學習すると地勢も産業も都邑もすつかり其の地域に即して説明が出來るので其地方の地理學習が終つた時復習總括として取扱ふのである。然し地理區による指導法は總括復習に於てのみやるべきではない。教材に即して考究すべきである。次に新學習に於ける地理區を單元とせる指導法を述べる。

(七)地理區による學習

A　豫　習

一、學習前に於ける豫習

(1)　地圖と教科書とを對照せる豫習

イ、地圖と教科書と對照せしめて研究する

ロ、全地方の研究を進め其の特相をつかむ

ハ、當地方の地理區を決定する

○地勢の概觀
○氣候の概觀
○都邑の分布等から
ニ、更に地理區決定に對する深究
ホ、各地理區に就いて深究
○地勢の研究
○產業の研究
○交通の研究
○都邑の研究
○各要素間の關係
(2) 實物標本を對照とせる豫習
イ、其地方に關係ある材料蒐集をする
ロ、材料が蒐集されたら陳列する
ハ、教師も出來るだけ材料を蒐集する

ニ、概觀的な實習をさせる
ホ、個別的に地理區の實習をさせる
ヘ、陳列された材料について研究する
二、學習時間中に於ける豫習
(1) 既習事項の豫備的復習
イ、兒童の生活との關係を問答する
ロ、既知事項の觀念を喚起せしめる
(2) 地理區決定より各地理區の深究
◎指導要領
(1) 教師の準備すべきもの
イ、關係地圖をかゝげる
ロ、地勢に關する材料用意
ハ、產業に關する直觀材料の蒐集
ニ、交通に關する材料

ホ、都邑に關する材料の蒐集
ヘ、研究資料を印刷する
(2) 實習を重んずる

B 學習法

一、地理區の決定をする＝指導の重点だ
(1) 地勢の概觀
(2) 氣候の概觀
(3) 產業の概觀
(4) 交通の概觀等を指導する

二、更に小地理區に分けて特色をつかませる
(1) 地勢の特色を發表せしめる
(2) 產業の特色
(3) 交通の特色
(4) 都邑の特色

(5) 氣候の特色
○發表には直觀材料を用ひてなさしめる
○其の間教師は具体的に補說をする

◎指導の要領
1、地圖と本とは對照せしめる
2、有機的に考察せしめる

C 復習法

一、言語による復習
イ、學習した順序に復習せしめる
ロ、地圖を指しつゝ復習せしむ
ハ、模型によつて復習せしめる
ニ、學習した順を異ならしめて一分類的に、旅行的に
ホ、口問口答をせしむ

二、筆による復習

イ、地圖をかきながら復習
ロ、筆問筆答せしめる
ハ、表記の体裁を異ならしめて復習せしむ
三、實習による復習
イ、實習の部參照
◎指導要領
イ、多種多樣なる練習をせしむ
ロ、教科書によりて總括せしむ
ハ、旅行的に分類的に總括せしむ
ニ、個人的自由練習を重んずる
今まで兒童の心理發達に即し、教材の特質に應じ、時代の要求に即したる學習法を述べたのであるが全部を盡すことは到底不可能である。故に指導者獨特の學習法が生れ出づべきであると思ふ。
六、教育測定の徹底

イ、指導の原理
近時個性尊重の教育、能力適應の教育が叫ばれてゐる。被教育者の具体的教育條件が教師の手によつて個別的に調査研究されて始めて個性尊重の教育も出來るのである。教育は結局個人對個人の問題に歸着するのであつて、學習すべき事項も個々に徹して始めて意味あるものである。個別的指導をするには何等かの適當な方法によつて個々の教育の力を測定するより外に方法はないのである。
ロ、指導要項
次に測定の標準を示すならば
(1) 尋五初期に於ける測定
イ、兒童の地理的欲求の測定
○質問を思ふまゝに發表せしめる
ロ、地理用語の收得の測定
○地理的用語を説明せしむ
(2) 地方的特色を見る力の測定

○地圖を見教科書を見て特色を發表せしめる

(3) 描圖能力の正確度と速度に就いての測定

○速さと正確さを見る

(4) 材料の研究力の測定

○地理的要素に從つて研究するか否か

(5) 挿繪、標本、實物に關する測定

○其に就いての觀察を筆答又は口答によりて發表せしむ

(6) 地理實習に關する測定

○實習に對する力を見る—實習の部參照

(7) 讀圖力に關する測定

○讀圖の基礎となる縮尺、方位、記號、圖式等の理解力を見更に觀察力を見る—讀圖の部參照

(8) 地理的識見に關する測定

○理法關係方面の理解力を見る

(9) 地理現象の記憶の測定

○材料の記憶力を見るのである

(10) 地理的能力の應用力測定

○時事問題を地理的に解く力などを見る

七、他教科と地理科との連絡をはかる

イ、指導の原理

吾々は地理科に於ては其の獨自性といふものを認め其の獨自性を發揮して行くことが大切である。此の地理の獨自性を自覺し其の任務を充分果すには必ずや、他の學科との合科的學習を考へて行かねばならぬ。

低學年では兒童の生活が單純であつて、而も各科の特質に應じて系統的に學習させる必要はないから純合科の學習であつてよい。然し高學年になるにつれて兒童の生活も漸く復雜となり、各科の特質に應じて深く學習し系統的に學習せねばならない。單に生活指導、合科學習に於て地理的方面が確然となつたに過ぎないのであるから合科學習の精神を忘れないことが必要である。

ロ、指導要項

(1) 地理科と修身科

愛國心の養成、經濟思想の涵養、海外發展の念を養成、國際精神の涵養、公民的精神の養成等は修身科と合科的にすべき所である。

修身書にあらはれたる地理の關係教材をあげると

巻五

第一日本、第十一進取の氣象、第八儉約、第九上杉鷹山、第十五勇氣、第十六忍耐、第二十二信義、第二十五博愛

巻六

第二三國運發展、進取の氣象、自立自營、公益

(2) 地理科と國語科

讀本には地理的教材が可なり多いから有効に學習する事が必要である。尙又地理學習には讀書力の必要なる事は言ふまでもない。綴方に於ける材料として利用されこゝに地理學習の文學化が出來る。讀本の地理的材料をあげる。

巻九

トラック島便り、ナイヤガラの瀧、炭坑、東京から青森まで、白馬岳

巻十

馬市見物、パナマ運河、日光

巻十一

太陽、孔子、上海、瀬戸內海、植林、ゴム、フカ、我は海の子、北海道、自治の精神

孔明、南米より、ウエリントン

巻十二

我が國の木材、出雲大社、十和田湖、釋迦、ヨーロッパの旅、間宮林蔵

(3) 地理科と算術科

縮圖の觀念、地理實習を始め算術と合科的に學習される部分が頗る多い。殊に經濟思想の養成はそうである。

五年用

八頁東京市の氣溫雨量、六頁米產額、五九頁エッフエル塔

(4) 地理科と國史科

地理は空間的學習により國勢を解して愛國心を養成し國史は時間的學習により國体の大要を理解して國民思想を養成し兩者相より相まつて國民教育の目的を達成せねばならない。都邑の發達原因、產業の發達由來等に歷史的考察の必要なることは論ずるまでもない。

國史教科書の地理的材料をあげる

國史第一卷

神功皇后、聖德太子、天智天皇と藤原鎌足、北條時宗

國史第二卷

豊臣秀吉、明治天皇、大正天皇、攘夷と開港

高等科卷一

朝鮮半島の服屬と文物の傳來、佛教の傳來と美術工藝の發達、大化改新と律令の制定

邦人の海外渡航と西洋人の渡來

(5) 地理科と理科

地理學習に於て取扱ふ自然人文に關することは理科學習と深い關係を持つてゐることは明かである。例へば交通教材上電信電話に關する知識も理科の知識と相俟つて理解さるべきものであつて如何なる方面に地理科と關係があるか教科書を見ると

尋五

土と岩石、泉井、川、海、花崗岩、夏至、秋分、食鹽、石灰、石油、鐵、冬至、銅、金銀

尋六

かいさう、うになまこ、二枚貝、いか、たこ、流水の働、土、電氣

(6) 圖畫手工と地理科

地理學習に於ける實地の描寫、模型の製作、圖表の製作など圖畫手工の合科學習を要するものが多い。

(7) 地理科と唱歌

唱歌の歌詞には地理的教材が多いから唱ひつゝ地理に關する知識が得られる。又地理學習から作歌することも面白いことである。

他教科と連絡をとると云つても不自然になつてはいけない。各獨特の本質を失はぬやうに見ね行かねばならない。

第七章　地理學習指導案

次の指導案は昭和五年六月の本校公開教授案であります。

一、教材　奥羽地方の産業

二、教材觀

本地方は面積頗る廣大にして北上川、最上川、雄物川等の諸川の流域には廣大な平地が連り尙耕地の餘裕を有してゐるが故に將來は人口が增加し、文化も愈々進み耕種の法も研究されて地味と氣候とに適應する産業が工夫されたならば現今日本の重要問題である食糧問題、人口問題を解決するメスともならう。此の意味に於て本地方の自然と産業との關係及び産業の現勢を學習することは重要な意義を有すると思ふ。

三、時間配當

第一時……農業と工業……（本時）

第二時……牧畜と林業

第三時……鑛業と水産業

四、本時の目的

本地方の主産業は農業であることは誰何人も否まれない事實であらう。そこで其の發達原因を尋ねて現況を知り人生との關係を探究することは重大なことであらねばならぬ。然るに本地方の農工業は日本の現況より見る時は不充分な点が多いと思はれる。此の見地に立つて本地方を研究することによつて日本に於ける本地方の農工業の價値及び今後進むべき方針が分ると思ふ。尙讀圖を指導して地人相關の有機的判斷になれしめ、本地方と鄕土及び關東地方とを比較研究する態度を養ひ且つ發表の態度も養成したいのである。

五、準　備

地圖　日本全圖、奥羽地方圖、九州地方圖、世界白地圖、日本白地圖、奥羽白地圖、農産、工産分布圖、奥羽地方斷面圖

圖表　米産額圖、麥、大豆、繭、生糸、絹織物、馬鈴薯の産額圖、氣候統計圖、耕地比較圖

標本　米、麥、大豆、リンゴ、繭、生糸、絹織物

模型　奥羽地方模型、各組製作模型

六、指導要項

一、奥羽地方の産業の特色を確認せしめる

(1)　農産額は他の産額より多いから農業が此の地方第一の産業であること。然し耕地の狹小、氣溫の低下のために一般的に産額は少い。

(2)　原料生産業の農業牧畜　林業と、天産採取業の漁業、鑛業は相等發達してゐるが工業が發達してゐない。今後此の方面に留意すべきであること。

(3)　地理的又は歴史的事情によつて東西兩海岸及南北の奥羽に著しい産業の特色があること。

二、米について

(1)　産地を明確ならしめる

(2)　農業法―耕地、播種、收穫

(3)　集散都市

(4)　運搬系統及び販路

(5)　此の地に産出する理由

三、大豆について

(1)　産地及産額

(2)　販路及用途

四、じやがいもについて

(1)　産地、産額

(2)　用途

(3)　氣候との關係

五、りんごについて

(1)　産地、産額

(2)　産出の理由

(3) 栽培法

六、農業の發達せぬ理由

(1) 耕地の面積が狹小になること

(2) 氣溫が低いこと

(3) 土地の開拓が不充分であること

(4) 南部に山岳があり文化の進入を防いだこと

七、養蠶業について

(1) 產地、產額

(2) 發達の理由

(3) 用途及販路

八、製糸絹織業について

(1) 產地、產額

(2) 發達の理由

(3) 販路

九、工業の發達せざる理由

十、農工業に對する今後の方針

七、指導計劃

一、本時學習の目的を確識せしむ

二、學習要項の發表をなさしめる

イ、板書により

ロ、地圖及圖表により

ハ、標本模型により

三、質疑應答をなさしめる

四、其の間教師適當の補說をなす

(1) 第一の產業は農業であるといふ事に對して

イ、住民の約六割五分は農家で其の戶數は六十萬戶であるが日本全國の農家五百五十五万の十分の一以上を有してゐることは既に農業が主產業であることが分る。

ロ、產物の中で農產物が約五億圓、畜產が二千二百十萬圓で林產が一千百萬圓である

關係から分ると思ふ。

これ等は參考資料として其の數量を印刷して渡して統計製作の資料にする。

然るに耕地が割合に少い、といふこれに對しては地勢の考察より兒童にも分ることゝ思ふが實際どれ位の割合になつてゐるか分らないから全面積に對する割合は印刷して渡すとよい。即ち一%に當り宮城縣に於ては二%に當つてゐると云ふ事を了解せしめる。

氣溫が低い。といふ事は地勢と關係して見たからよいと思ふが第二圖の氣溫圖を見させ又各自研究してゐるだらう。鄉土と關係づけて年平均溫度や又梅桃櫻が同時に開花することなど具體的に說話してゆく。

(2) 林業牧畜業は相當發達してゐることに對して

イ、原野が多いからと云ふことから分ると思ふが尙前の耕地面積のそれからも分る。

尙產業に關して研究してゐると、此の事はよく了解される。

(3) 東西南北によつて產業上著しい差があるといふことに對して

勿論此の点については兒童は分つてはゐるだらうが、南部の養蠶製糸業地帶、北部のりんご農業地帶、東部の牧畜農業地帶、西部の農業、林業、鑛業地帶と讀圖を通して知らしめたいと思ふ。其の理由は各目考察せしめながら敎師は描圖しつゝ進める。

米

イ、產地を模型、地圖、自作模型等によつて最上川雄物川、仙台平地であることを明確にし、米の準備あるものは散布せしめる。—何故此の邊に出るか頭の中に入れて

ロ、耕地は前にも學習した樣に少い上に氣溫は低かつたので特別に苗代田を作つてゐて一年中それは苗を作る時の外利用せられないのである。其の苗代田の廣さは $\frac{15}{300}$ だけださうだから耕地百町歩に對して十五町歩は普通苗代田といつて用ひられないさうであるといふこと等知らしたらよいと思ふ。

氣候と農業との有機的考察をなさしめ且つ鄉土と比較して學習する態度を作る。

ハ、集散都市　人口と產額との關係及び生活狀態から年三百萬石位餘るので良質の米を東京、北海道、樺太方面に移出されることを考察せしめる。その方面に行くに如何なる經路を通つて行くか地圖を通して先づ太平洋方面では仙台、日本海方面では

酒田港が集散地であり往時石巻が繁榮の地であつたことを話すのもよい。

ニ、運搬系統及販路　此處に集まつたものがどうして東京に行くか鐵道乃ち交通と關係づけねはならぬ。

此の地方から東京へ七百五十萬俵の中から四百八十七萬俵來て其他は北海道樺太へ行くこと縣別の統計は印刷して渡す。日本の食糧問題も說かねばならない。而も鄉土の食糧問題も考察しながら！

ホ、此の地に產する理由、今までのものを總括して考へると自づから分つて來ると思ふが地質のよいこと即ち往時海底であつたことは想像されると思ふ、更に氣候圖によつて西部は夏季高溫であることが了解される、人力の尊さも說かねばならぬ。

大豆

イ、產地產額　地勢によつて當然岩手縣が多いといふことは分るが本地方は北海道關東と共に日本の三大產地で約百萬石內地の約二割五分を產する。

ロ、販路及用途　產額の少い南日本まで及び醬油及味噌の原料になる。其の產地には明瞭に大豆をまくとよい。

じやがいも

イ、產地產額　青森(內地二)福島(內地三)宮城(內地四)に產し約五千萬貫である。

ロ、用途　澱粉製造のために用ひられ遠く南洋、シベリヤの各地輸出されるのであるさつまいもと比較さす。

ハ、氣候との關係　考察的にならしめ稻作が充分でなく甘藷の栽培が思ふ樣に出來ないから此の植栽が盛になつたのである。

りんご

イ、青森縣が主產地である。青森縣內には七千町步に百七十萬本のりんごの木がある一ケ年六百三十萬貫(四百萬圓)以上の生產である。去年など十錢に二十位もらへたといふが鄉土と比較對照しつゝ進めてゆくと面白い。

ロ、產出の理由　地質が砂質壤土の所で氣候寒冷な地が適當である。

ハ、栽培法、枝切(二月下旬)　施肥(四月上旬)　藥劑散布(年七回)　袋掛(六月上旬)袋剝ぎ、樹上着色、採集、箱詰、藏庫又は販賣、成熟の時期は各異なる。

イ、産地　關東地方の場合と比較せしめると同時に福島、山形なることを明瞭にし其の土地に繭をおかしめる。

産額も統計圖表による。

ロ、發達の理由も關東地方の場合から考察せしめたい。

ハ、用途販路　製糸業と關係づけて考察せしめる。

製糸絹織物業

イ、産地産額　福島、山形なることは有機的に理解せしめる其の産額は印刷して渡し統計實習をなさしめる。

ロ、發達の理由　原料のあること、原動力のあること、歴史的原因のあることなどを考察せしめる。

尙其の産物については特色を知らしめる。

ハ、販路　我國重要輸出品であることより考察せしめる。

工業の發達せざる理由　原料力の不足、勞力の不足を考察せしめたい。

農工業に對する今後の方針

兒童相互を意見を發表せしめて適當に指導する。此の處が今日の眼目であつたのであるから充分考慮せしめたいものである。

これがすんでから自己の研究の誤れるところ、尙不審に思はれる点を研究指導する復習については尋五の第二期の學習法の部に述べてある。

學習指導案の形式内容も教材なり兒童の發達程度、教育思潮等によつて變るべきものであるが此處には單に尋五の部の例をあげたので是とて不充分な點が多いと思はれるから尙研究の歩を進めたいと希望する。

第八章　地理教育の環境

地理教育は一定の自然中に生活する人類は如何なる形式に於てその自然環境に順應し、利用し或は是を征服しつゝあるかの關係を明かにするものである。故に地理教育の環境としては大自然と活社會との利用が必要であり大切である。これには校外教育の必要なることを特に感ずるのである。

此の校外教育については以前より屢々論じて來たのであるからこゝでは略する。しかし地理は人類生活の場所としての地球を研究の對象とするものであるから其の範圍は極めて廣く、隨つて一々之を直觀せしめ、之に直接せしめる等といふことは到底出來るものではない。鄉土の大自然と活社會とは地理教育の出發點として最も肝要なる基礎觀念を提供して呉れ、それ以上は矢張其の觀念を基礎として、成るべく實際に近く想像せしめ類推せしめるより他に仕方がない。そこに教室の必要も生じ設備の必要も生じて來るのである。

特別教室

地理教室に就いて考へさせられる問題は(一)授業は普通教室を使用し單に地理の標本室を設ける場合　(二)地理特別教室を作りその中に標本を陳列する場合　(三)地理特別教室の外に標本室兼鄉土館を設置する場合の三つである。第一の場合は不便が可なり多いことは明かである。第二の場合でも不便な點が多い。そこで第三の方法が最も理想に近い方であらう。勿論設備の問題は根本的に理想的に考へれば幾多の改善すべき點はあるがこれには多大の經費を要するので現代の如く不景氣の折に大体實現し得る範圍内に於て最も有効な設備をするのが立派な方法であらう。

近時鄉土科設置の問題が擡頭し鄉土教育の重要なことが論じられて來た。そこで早晩鄉土館が設置せらるべき機が到來するであらう。私は其の見地に立つて第三の方法を述べて見たいと思ふのである。特別教室の方から述べる。

廣さ　色々の材料が陳列され兒童用の机も大きいのであるから出來るだけ廣い方がよい。縱横が五間と六間位がよい、採光の點も充分注意せないと觀察の不明瞭に終る場合がある

壁面　廊下に接する方面に二ヶ所に入口を設け、正面教壇の背後の壁面には一方によせて鄉土館に通ずる入口を設け中央部に三尺位の高さに黑板をかける。黑板の長さは約二間餘幅四尺位の黑色のものがよい。

黑板の側に天井から映寫幕をとりつけ卷上式にしておいて平常は上方に卷き上げておくが使用の際は幕を下部についてゐる糸を引いて下げ、終つて糸を離せば自然に天井に向つて卷上るのである。地質は天竺木綿でも羽二重でもよいが汚れ易いから洗濯を怠らぬやうにしたいものである。

左右と後方の壁面には細長い陳列所を設け兒童の蒐集せる材料及び教師の製作蒐集せる物を陳列し研究の便に供する陳列臺の上部には成績點布板をかけるとよい。